

東播磨新地域ビジョン 策定データ

令和2年6月17日

東播磨県民局 総務防災課 ビジョン担当

兵庫県 |

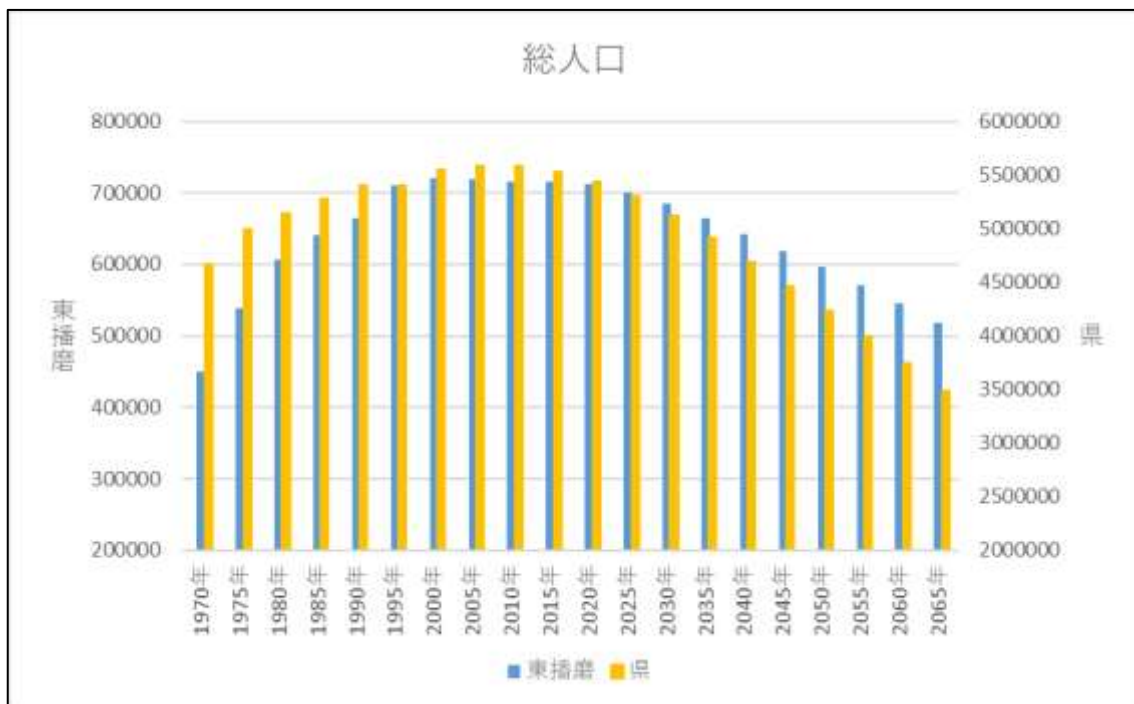
目次

東播磨の人口	3
総人口	3
年齢別人口比率	4
生産年齢人口推計	5
75歳以上人口・外国人県民数	6
世帯数	7
世帯の構成割合	8
出生率・合計特殊出生率	11
人口増減	12
東播磨の転出入状況	13
人口の社会移動	13
東播磨市町年齢別転入超過数(2019)	14
地域市町別・若年者の転入超過数(2019)	15
東播磨の産業構造等	17
産業分類	17
有効求人倍率	19
女性有業率	19
通勤先	20
製造品出荷額	21
男女別業種毎の人口と平均年齢	22
その他データ	23
刑法犯認知件数	23
観光客入込数	24
新規就農者数	25
空き家戸数・空き家率	26
鉄道駅乗車人員	27
自動車の保有状況	28
自転車関係事故の発生状況	29

近年の大雨による災害	30
1 時間降水量 30mm 以上の年間発生回数	31
避難行動	32
通信機器保有状況.....	33
県民意識調査	34

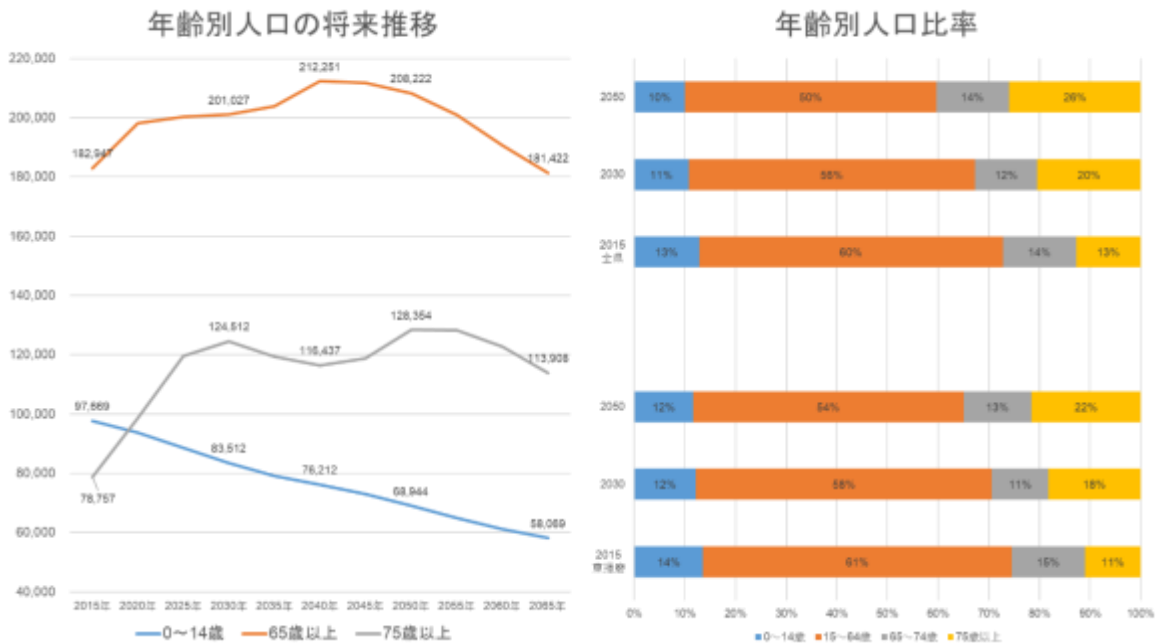
【東播磨の人口】

○ 総人口・人口の社会移動



2000年までは急激に増加していたが、東播磨は2000年、全県は2005年にピークに緩やかな減少傾向にある。また、2020年以降減少割合のペースは加速していくと推測されるが、全県と比較すると減少のペースは緩やかである。

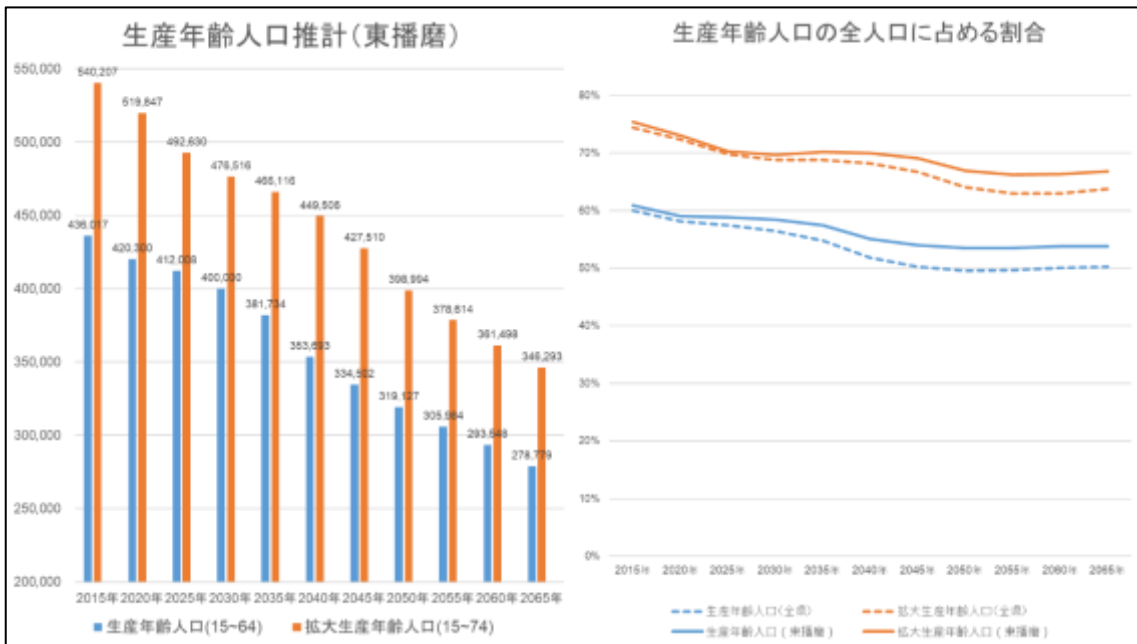
○ 年齢別人口比率



若年者人口は減少し続けると推測されているが、高齢者人口は2040年まで増加し続けると推測されている。また、後期高齢者人口は増減を繰り返し、2050年頃にピークが訪れると推測されている。

比率にすると若年層、生産年齢層は減少し続け、75歳以上の人口は増加し続ける。2050年には75歳以上の人口が22%になると推測されている。

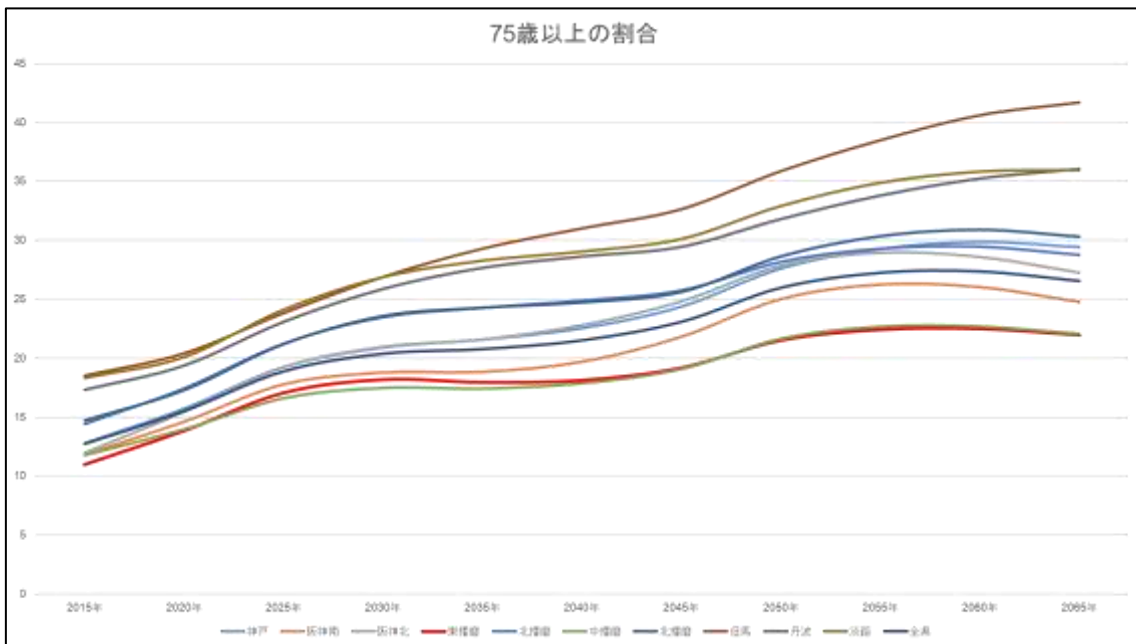
○ 生産年齢人口推計



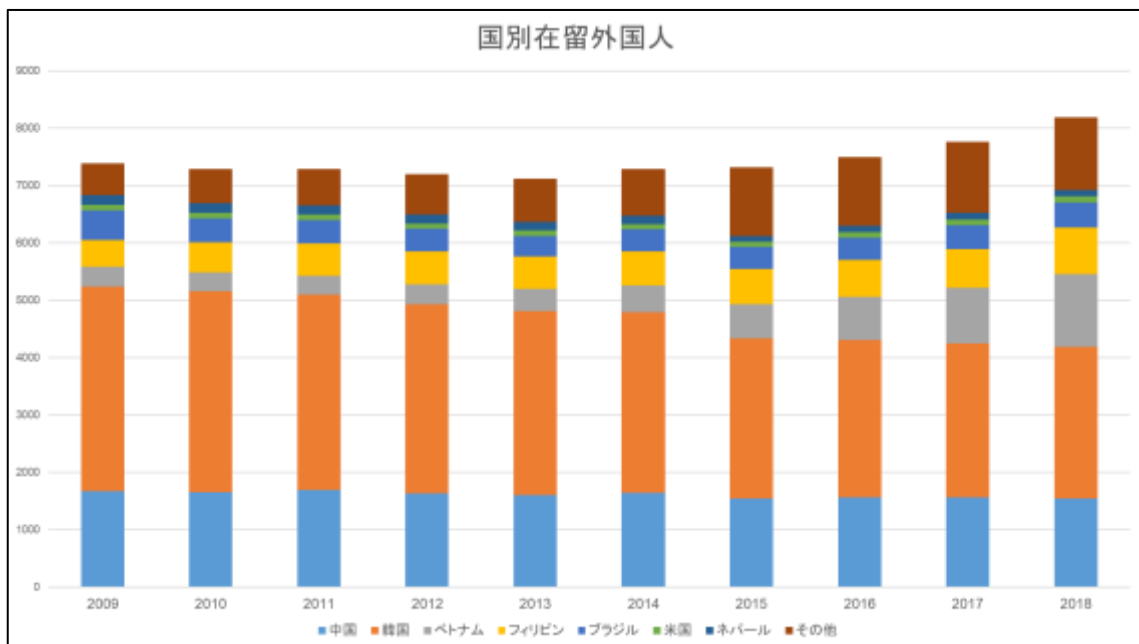
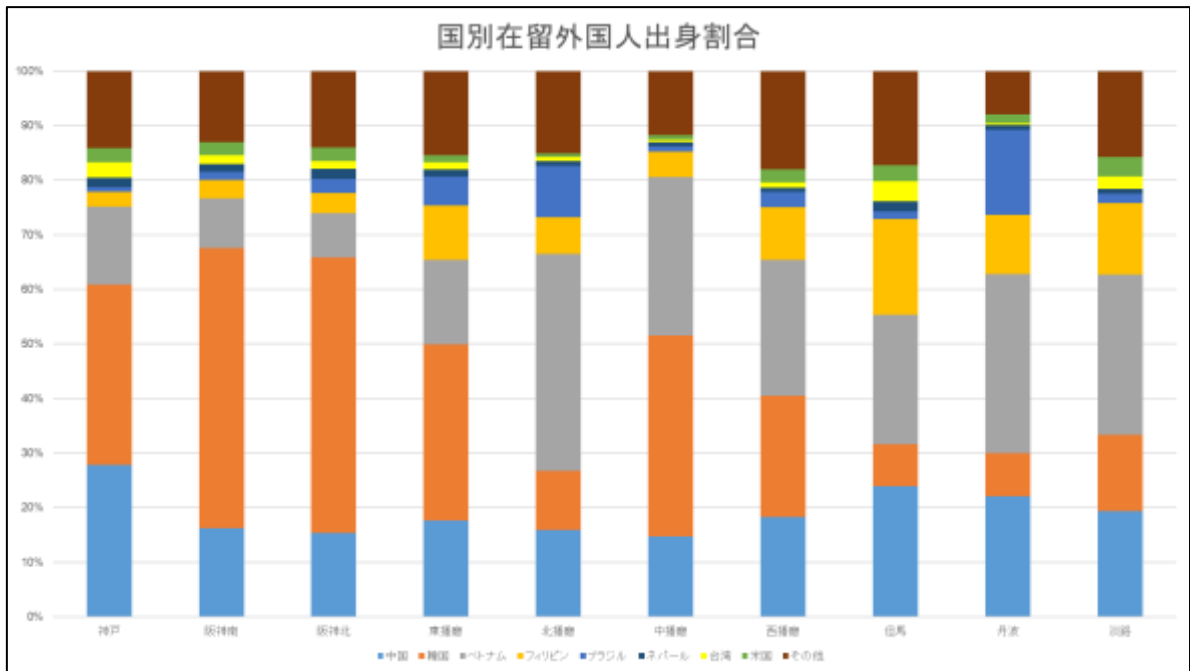
生産年齢人口は今後緩やかに減少していくと考えられる。また、人口に占める割合自体も下がっていくことから、総人口の減少以上のペースで減少していくことが考えられる。

拡大生産年齢人口は同様に緩やかな減少が推測される一方、全人口に占める割合が2030年代で一次的に上昇すると考えられる。

○ 75歳以上人口

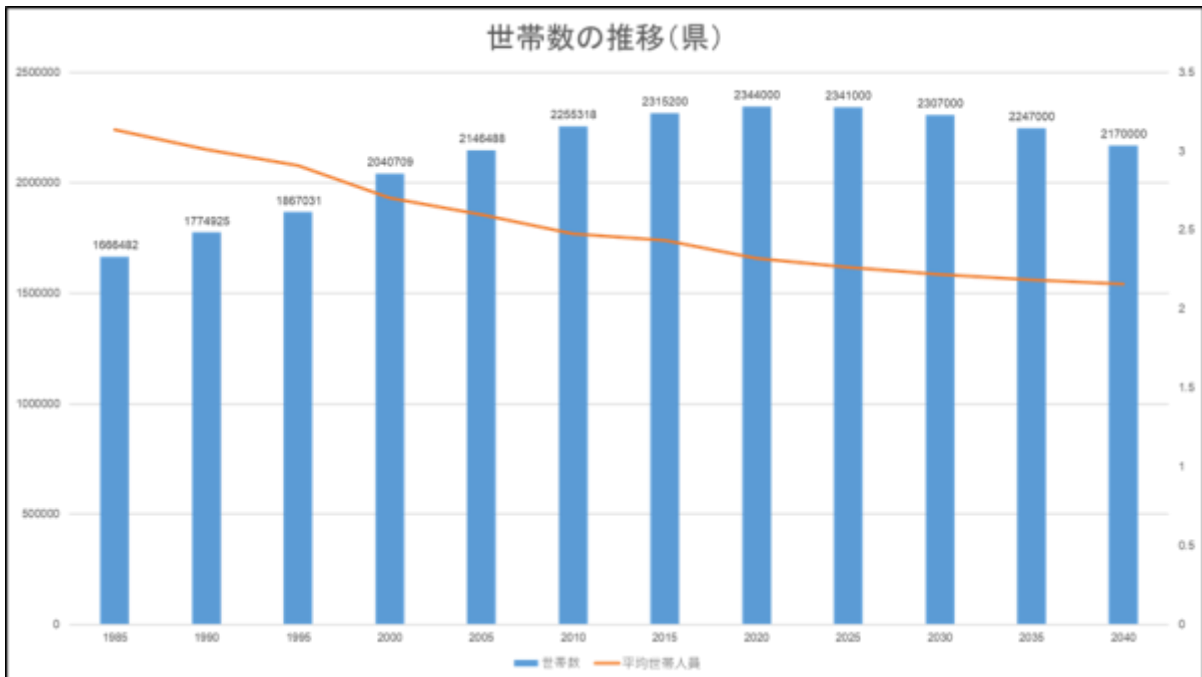
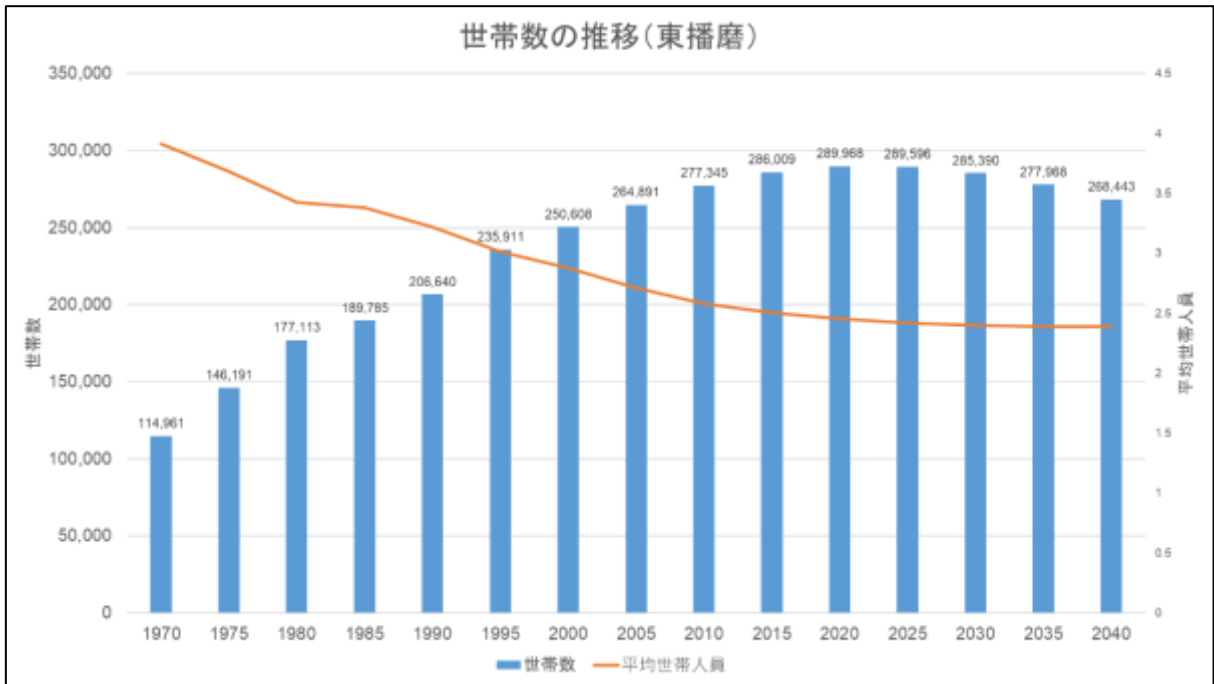


○ 外国人県民数



在留外国人は2013年から増加し続けており、韓国人が減ってベトナム人が増えている傾向にある。

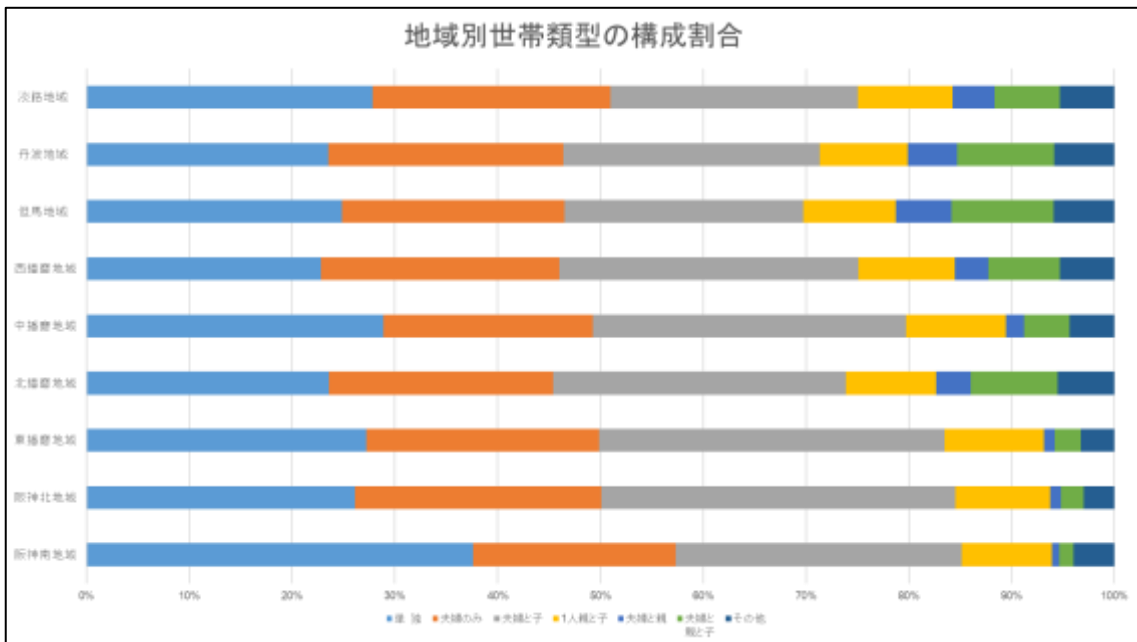
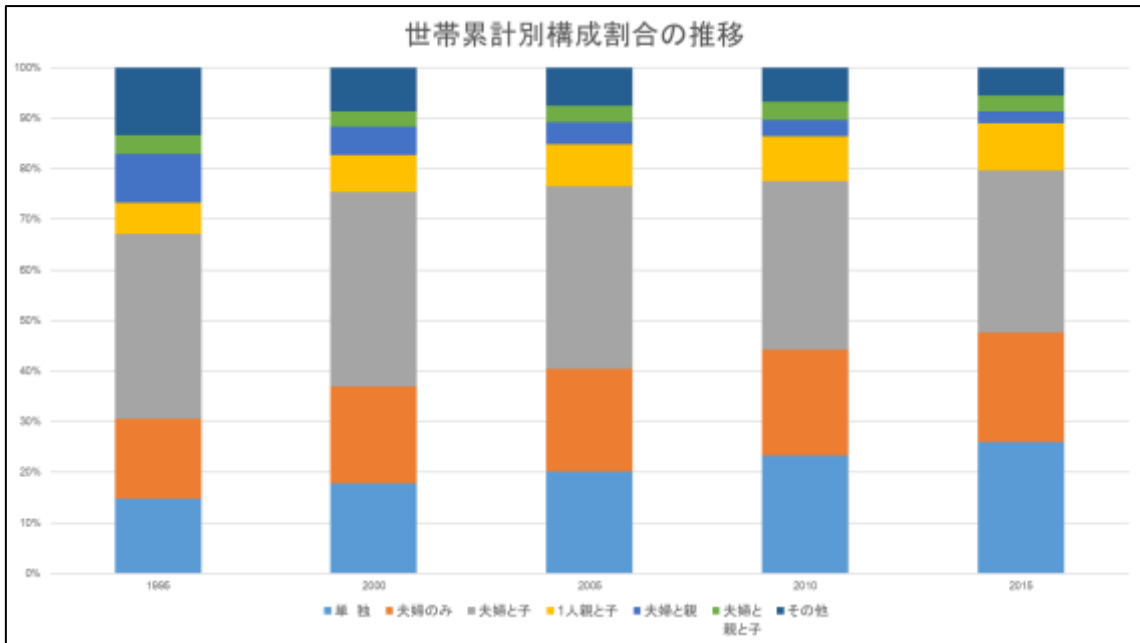
○ 世帯数



世帯数は2020年まで増加し続けた後減少に転じると推測されている。一方1世帯あたりの平均人員は減少を続けており、今後減少のペースは緩やかになると考えられている。

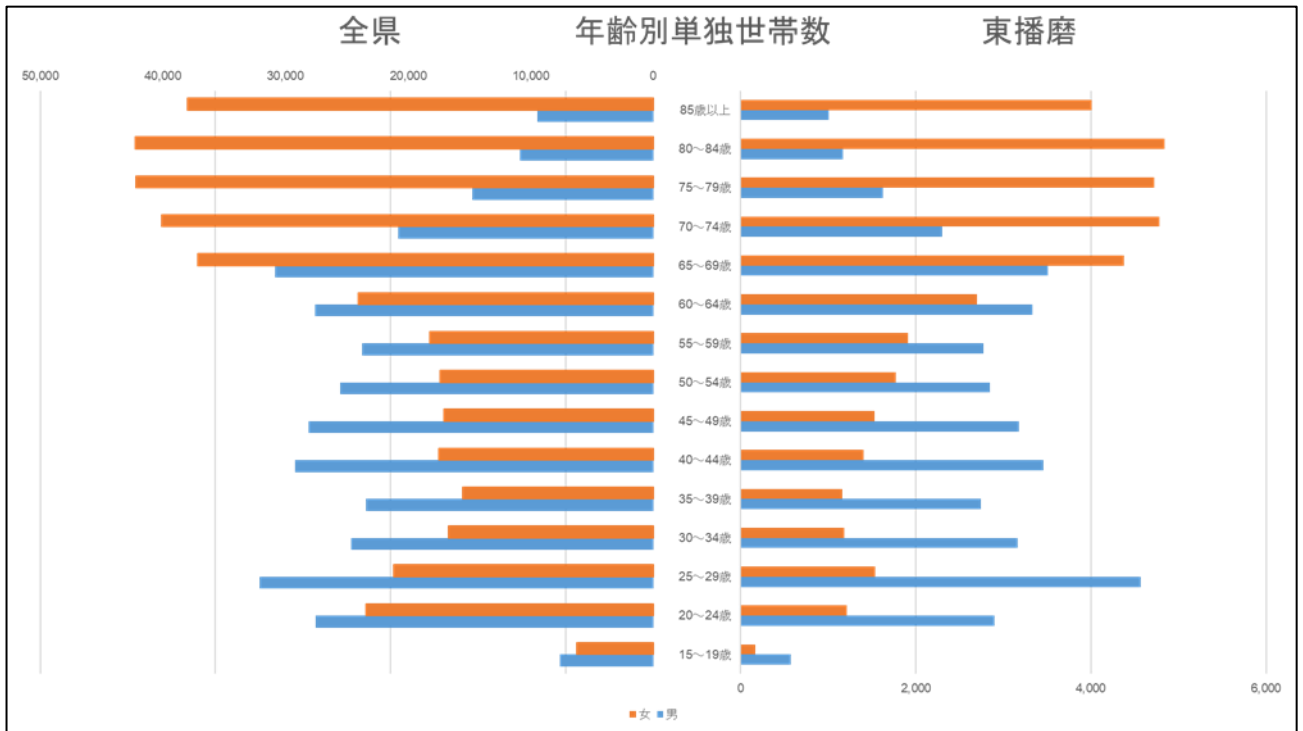
※東播磨の推計は全県の変化倍率を用いているので、全県と同じ動きをしている

○ 世帯の構成割合



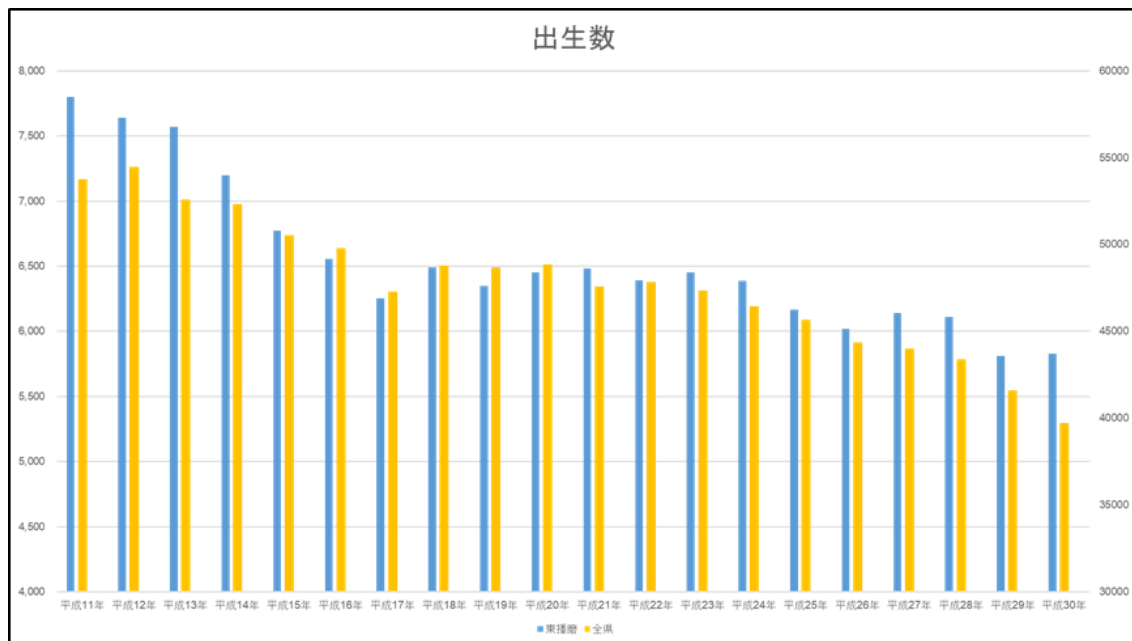
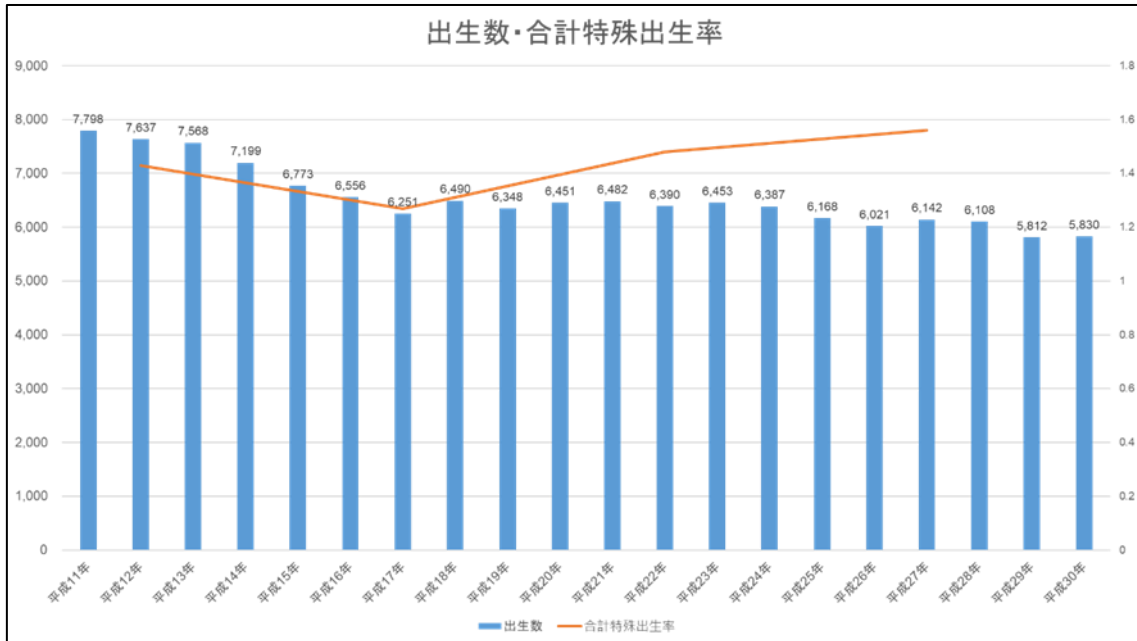
世帯の構成割合としては、単独世帯や1人親世帯が増加し、夫婦と子や、夫婦と親による家族世帯が減少している。また、他地域と比べると「夫婦と子」世帯が多い。

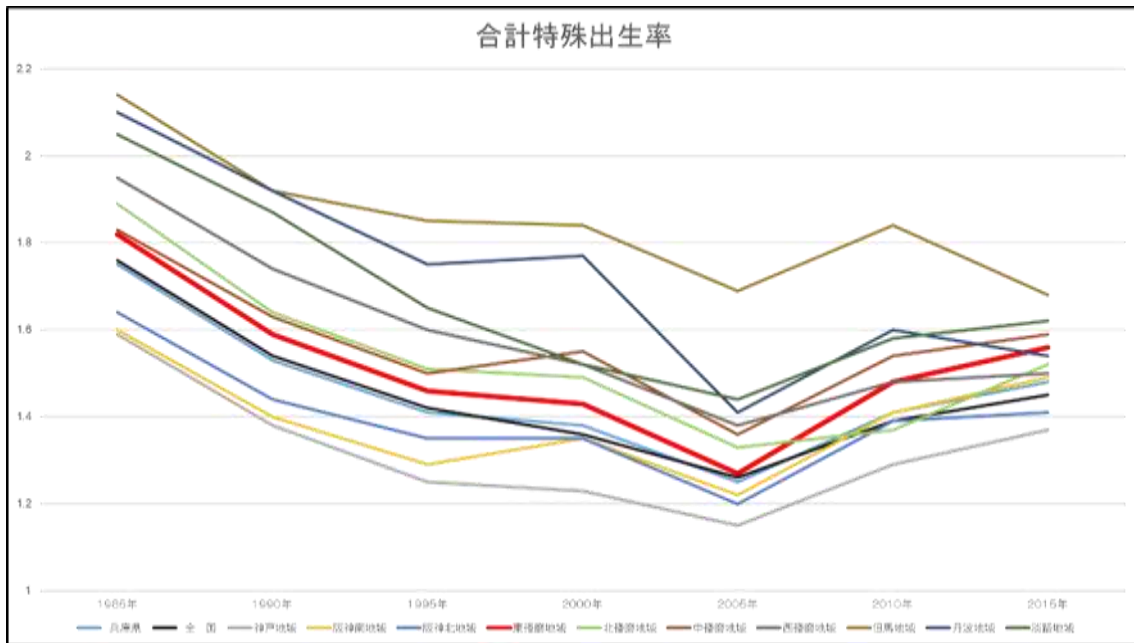
○ 単独世帯の構成割合



単独世帯の構成としては15歳~64歳までは男性の単独世帯が多く、65歳以上は女性の単独世帯が多い。また、全県と比較すると若い女性の単独者世帯の割合が少ない。

○ 出生率・合計特殊出生率

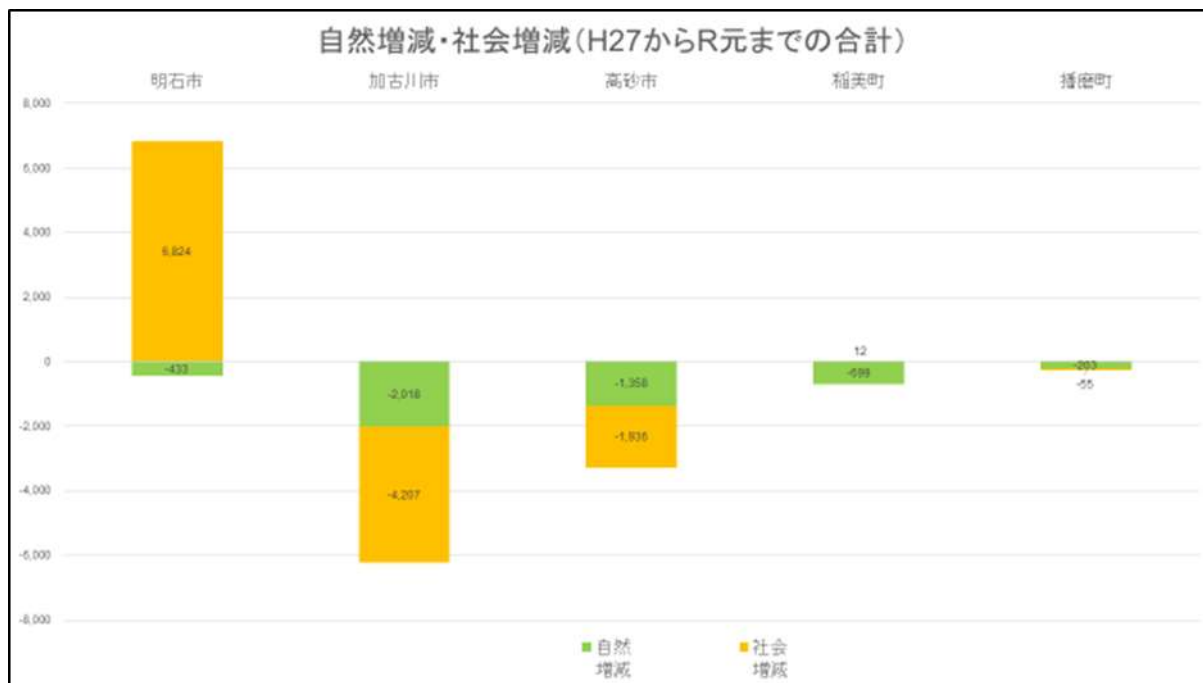




平成 12 年から平成 17 年にかけては出生数・出生率共に減少しているが、平成 17 年から 22 年にかけては出生数が横ばい、出生率が増加している。その後出生率の増加は緩やかになり、出生数は緩やかに減少している。出生数の変化は全県と比較すると緩やかである。

○ 人口増減

いずれの市町も死亡が出生を上回り、自然減となっている。



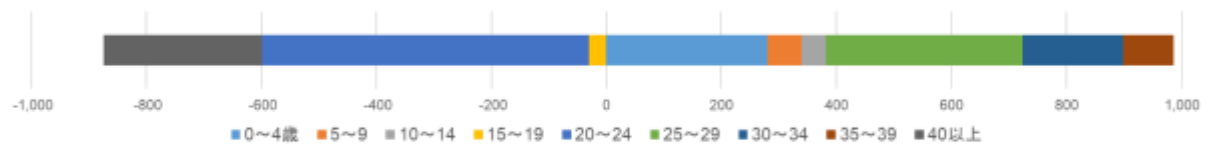
加古川市、高砂市、播磨町については、自然減に加え転出が転入を上回る社会減にもなっているが、明石市は転入が転出を上回る社会増が著しい。

【東播磨の転出入状況】

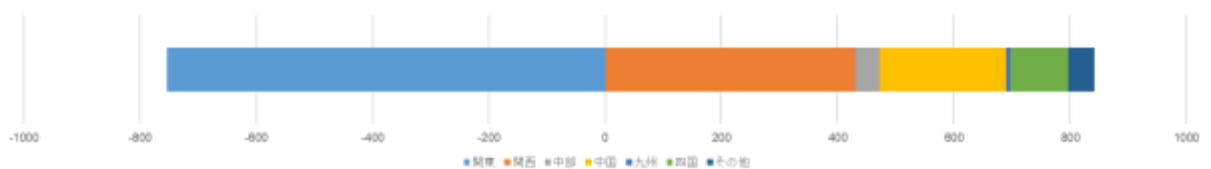
○人口の社会移動

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31
転入	22617	21685	21742	21235	21688	21211	22453	22704	22518
転出	22242	22277	22353	21953	22203	22131	21918	21962	22406
転入超過	375	-592	-611	-718	-515	-920	535	742	112

年齢区別転入超過人数



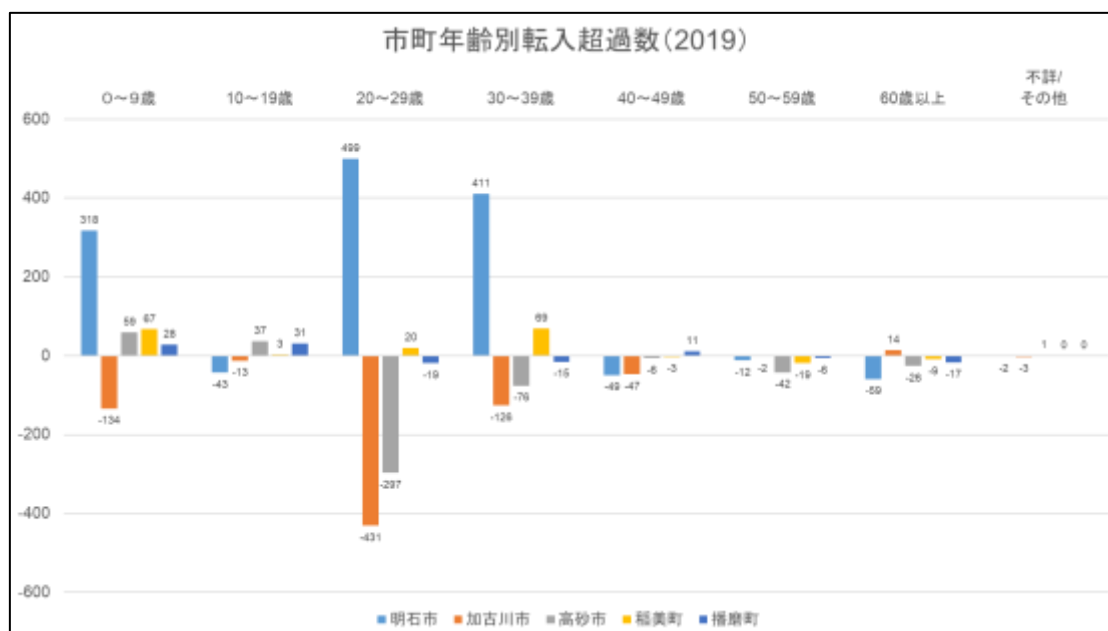
地域別転入超過の状況



平成 24 年から転出超過の状態が続いていたが、平成 29 年から転入超過に転じた。年齢別に見ると 20~24 歳が大きく転出超過で、逆に 25~29 歳・0~4 歳は転入超過である。

地域別に見ると、関東地域への転出超過が大きく、逆にそれ以外の地域からは転入超過である。

○ 東播磨市町年齢別転入超過数(2019)



明石市では、20～30代の子育て世代の転入超過が著しい。親世代の転入に伴って、0～9歳も転入超過となっている。その他の世代では僅かに転出超過となっている。

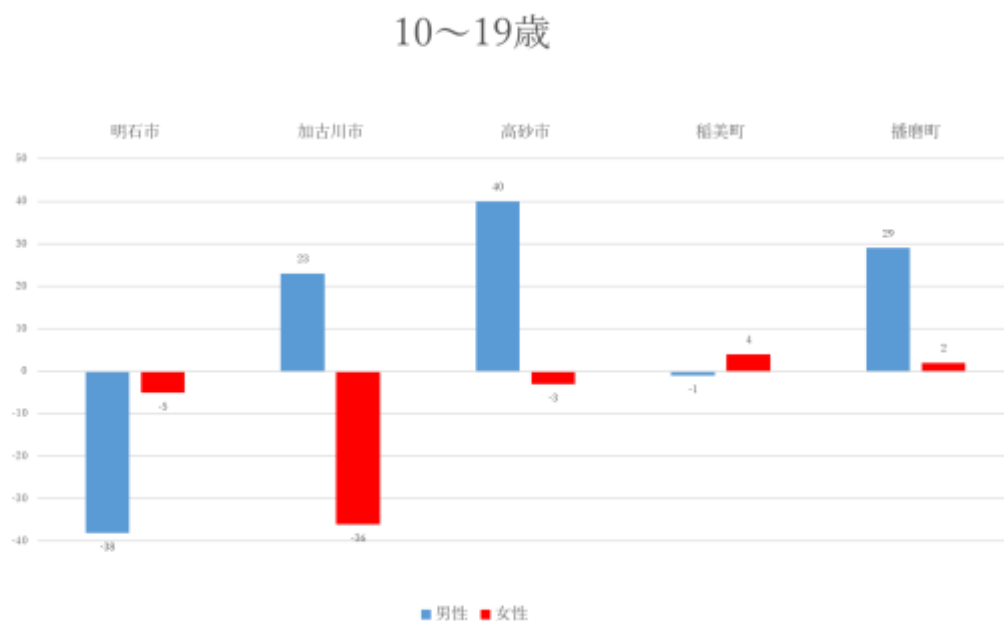
加古川市では60歳以上のみが転入超過となっているが、他の世代では転出超過となっており、特に0～9歳、20～30代の転出超過が目立っている。

高砂市でも、20～30代の転出超過が目立つが0～19歳では転入超過となっている。

稲美町では40歳以上は転出超過となっているが、0～30代のどの世代でも転入超過となっており、特に0～9歳、30代の転入超過が著しい。

播磨町は、0～19歳、40代は転入超過となっているが、その他の世代は転出超過となっている。

○ 地域市町別・若年者の転入超過数（2019）



【10～19歳 男性】

加古川市、高砂市、播磨町では転入超過となっているが、明石市と稲美町では転出超過となっている。明石市での転出超過が著しい。

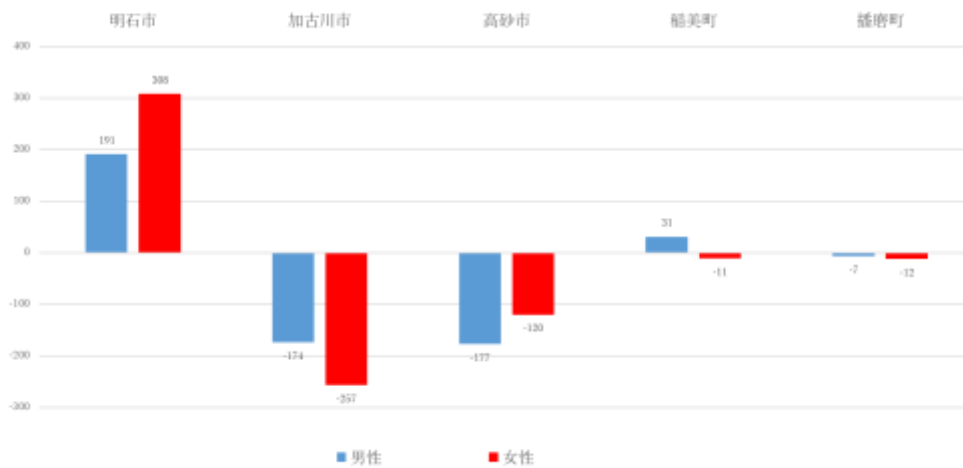
【10～19歳 女性】

明石市、加古川市、高砂市においては転出超過となっており、特に加古川市での転出超過が著しい。稲美町と播磨町では転入超過となっている。

男女ともに転入超過となっているのは播磨町のみ。

男女ともに転出超過となっているのは明石市のみ。

20～29歳



【20～29歳 男性】

明石市と稲美町のみが転入超過となっている。

【20～29歳 女性】

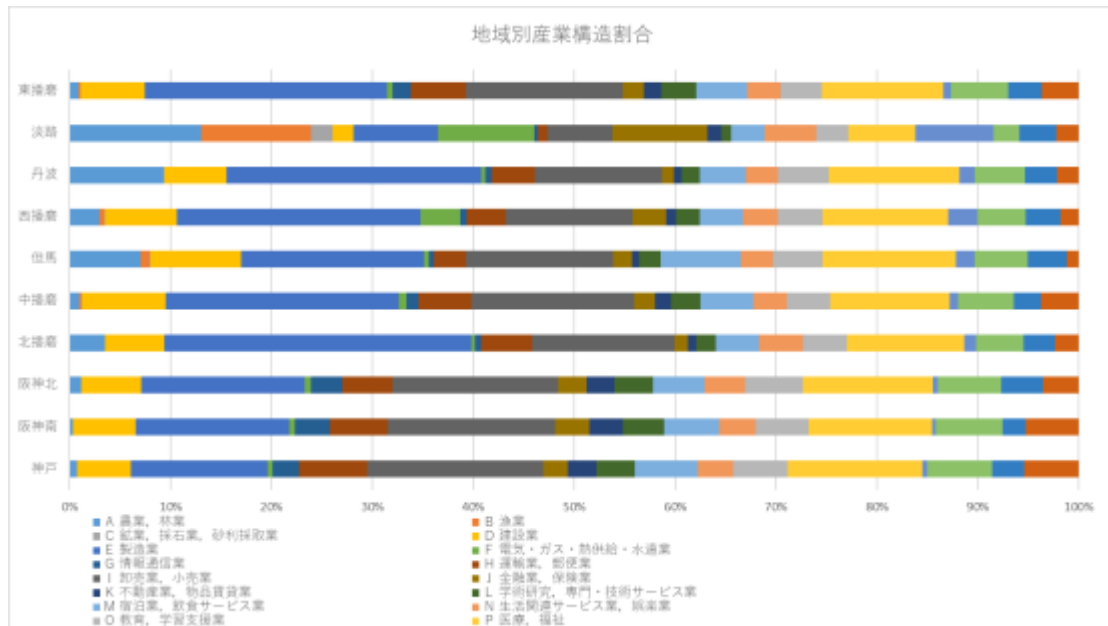
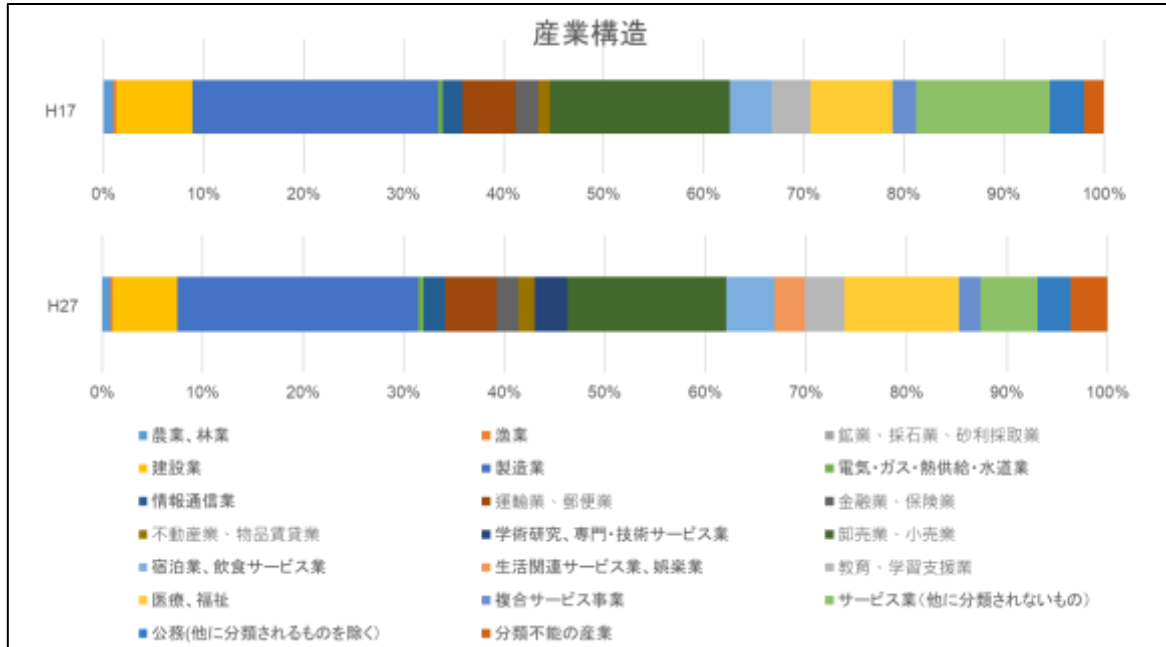
明石市以外の2市2町が転出超過となっている。

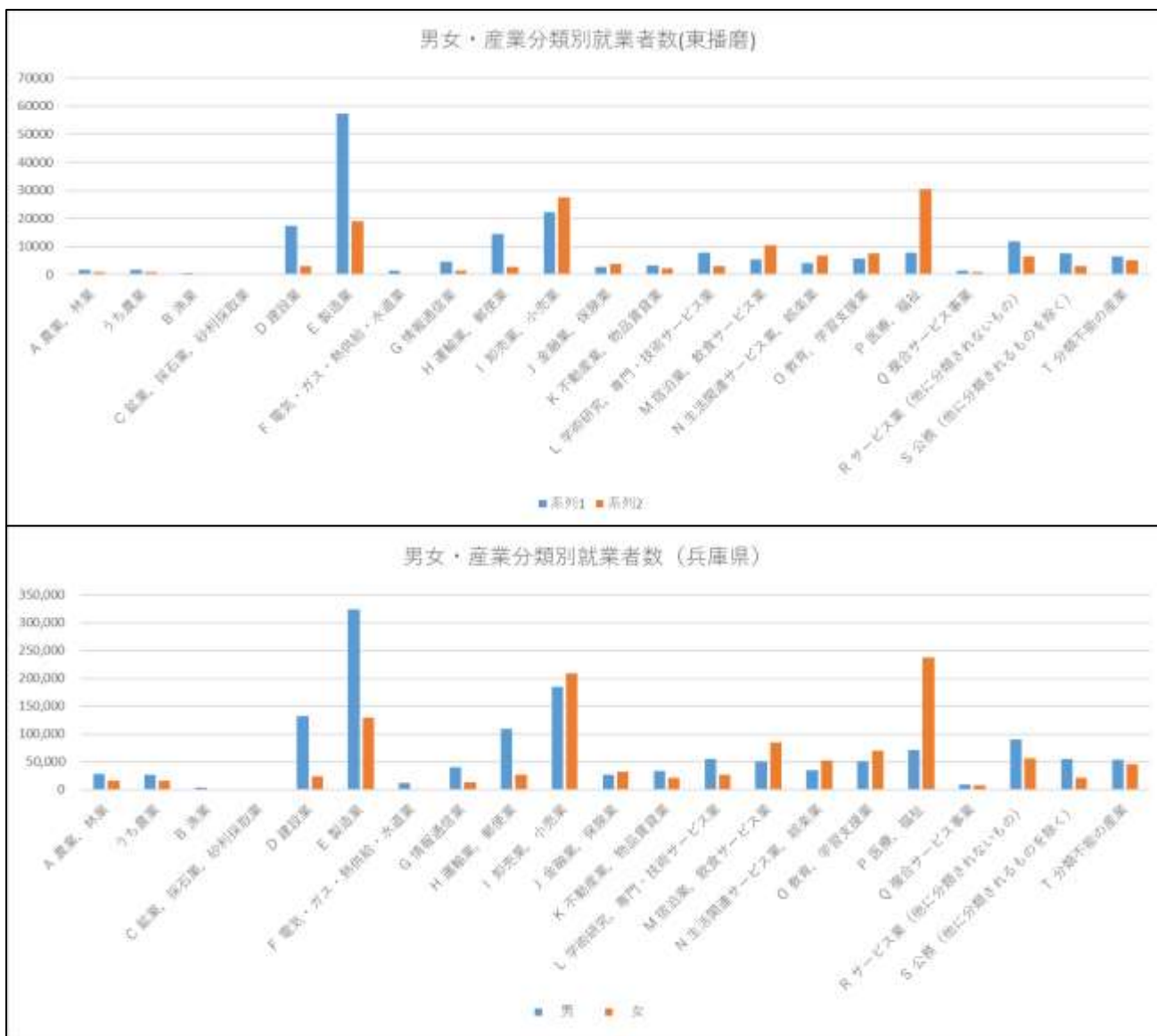
明石市では、20代がいずれも転入超過となっている。

加古川市、高砂市、播磨町はいずれも転出超過となっている。

【東播磨の産業構造等】

○ 産業構造

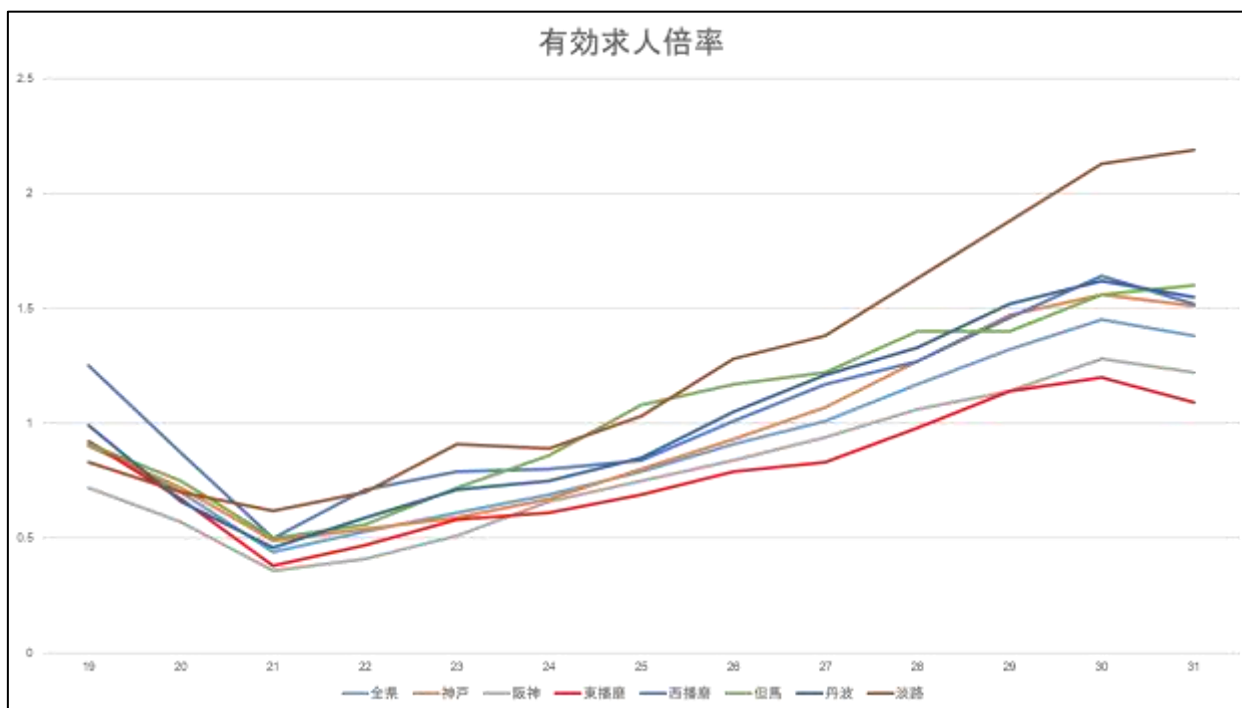




平成 27 年は 17 年と比較して医療・福祉分野の割合が増加した一方建設業の割合は減少した。一見するとサービス業が減少しているが、分類が細分化されたためである。産業構造は他地域と比較すると阪神・神戸地域に似た構造をしているが、比較的製造業の割合が高い。

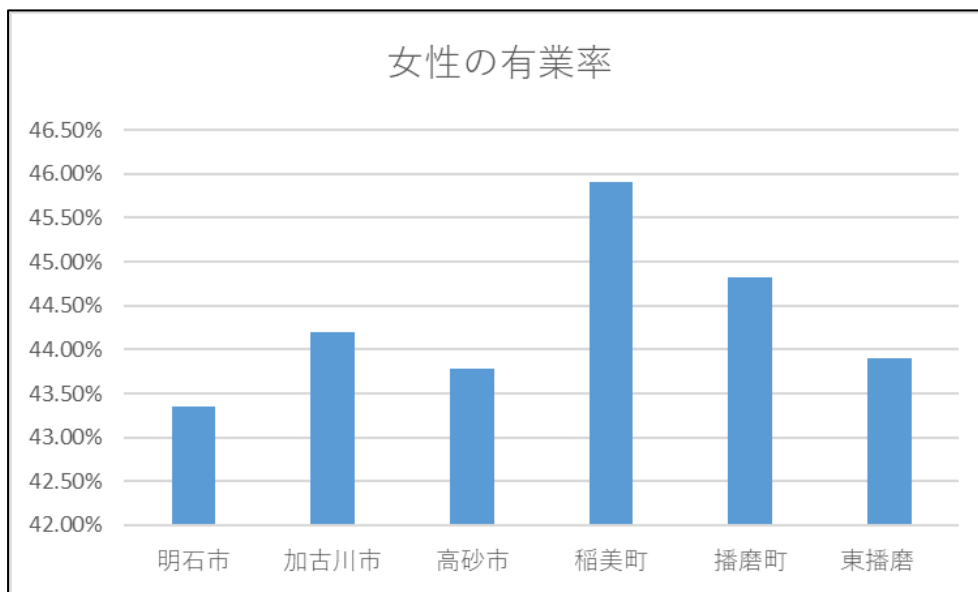
また、産業分類ごとの男女構成は東播磨と全県で大きな違いは見られない。

○ 有効求人倍率



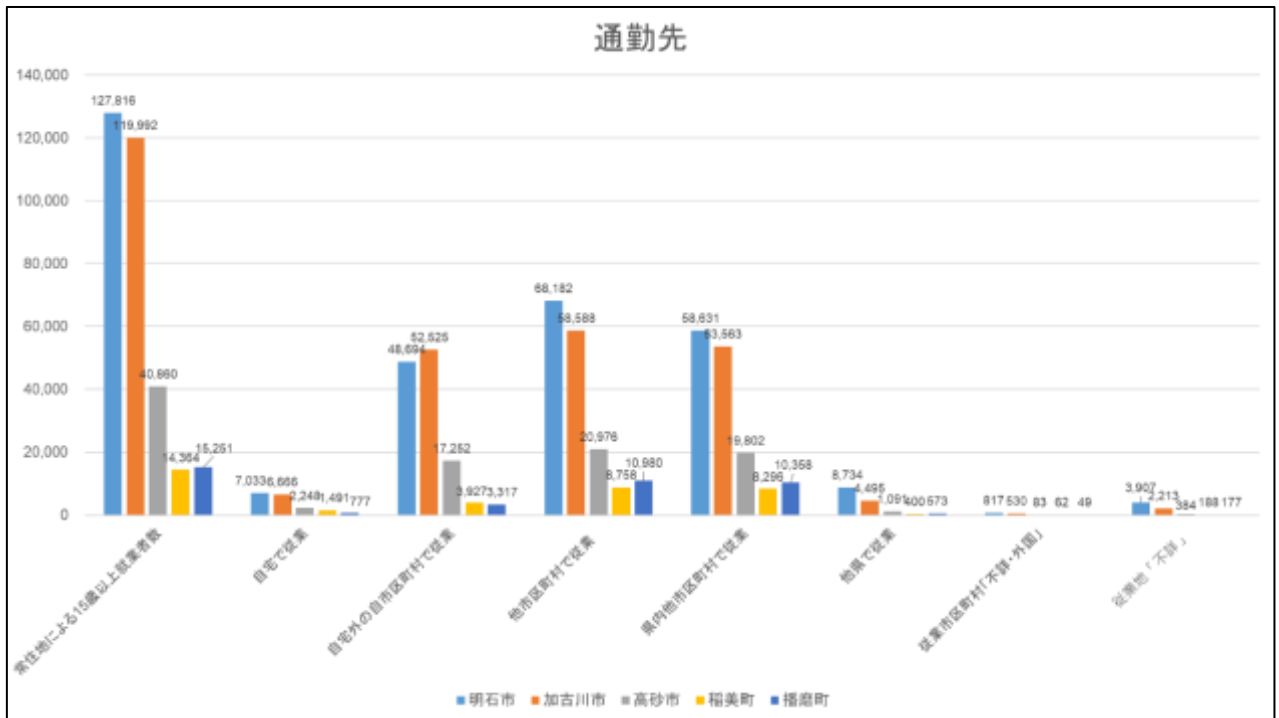
平成 13 年から増加傾向にあった有効求人倍率は平成 18 年をピークに大幅に減少し、平成 24 年に 0.38 倍となった。その後は増加し続けている。

○ 女性有業率



女性の有業率は東播磨全域で県平均よりも低い数字となっている。東播磨管内では稲美町が最も高く、明石市が最も低い数字となっている。

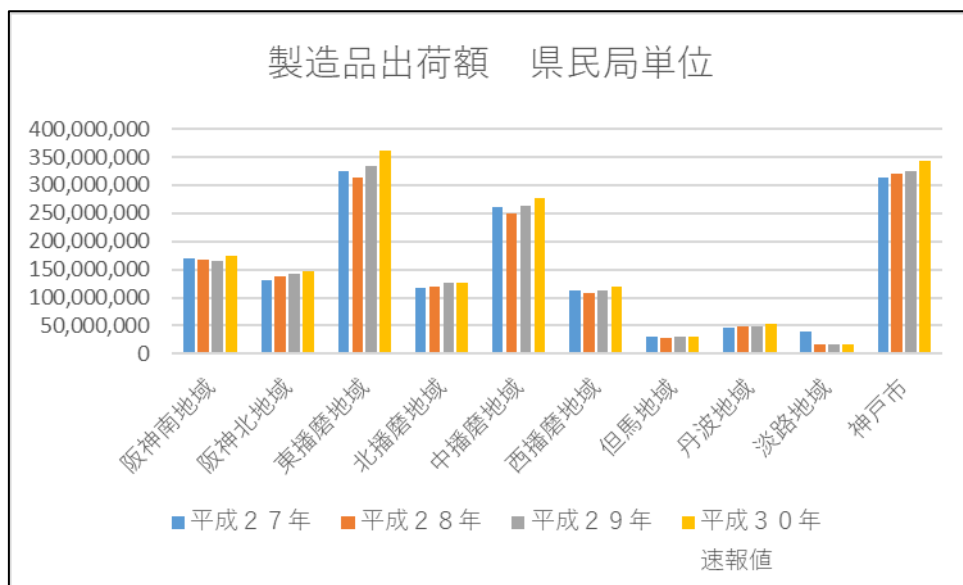
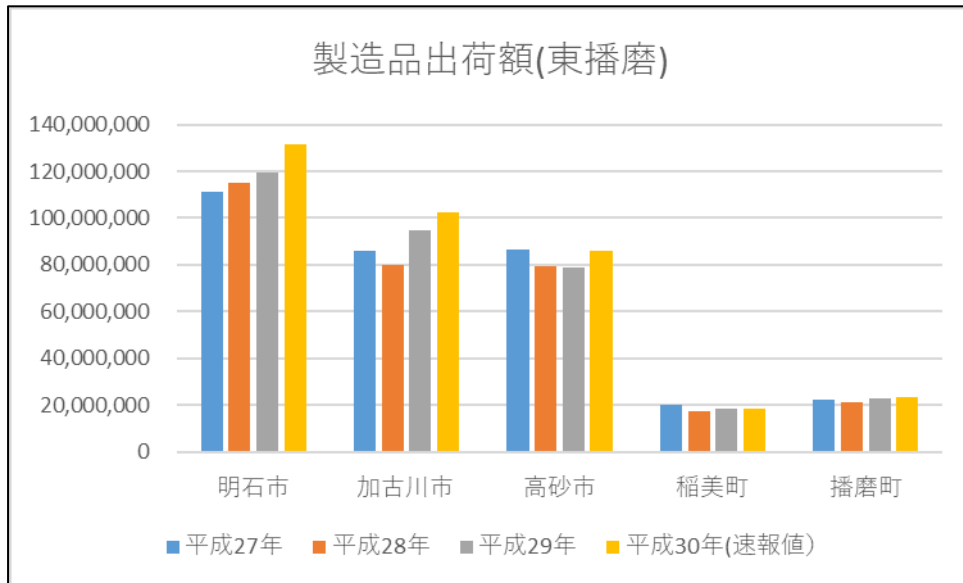
○ 通勤先



常住地による15歳以上就業者数のうち、明石市43.59%、加古川市49.32%、高砂市47.71%、稲美町37.71%、播磨町26.84%が各市内で従業している。

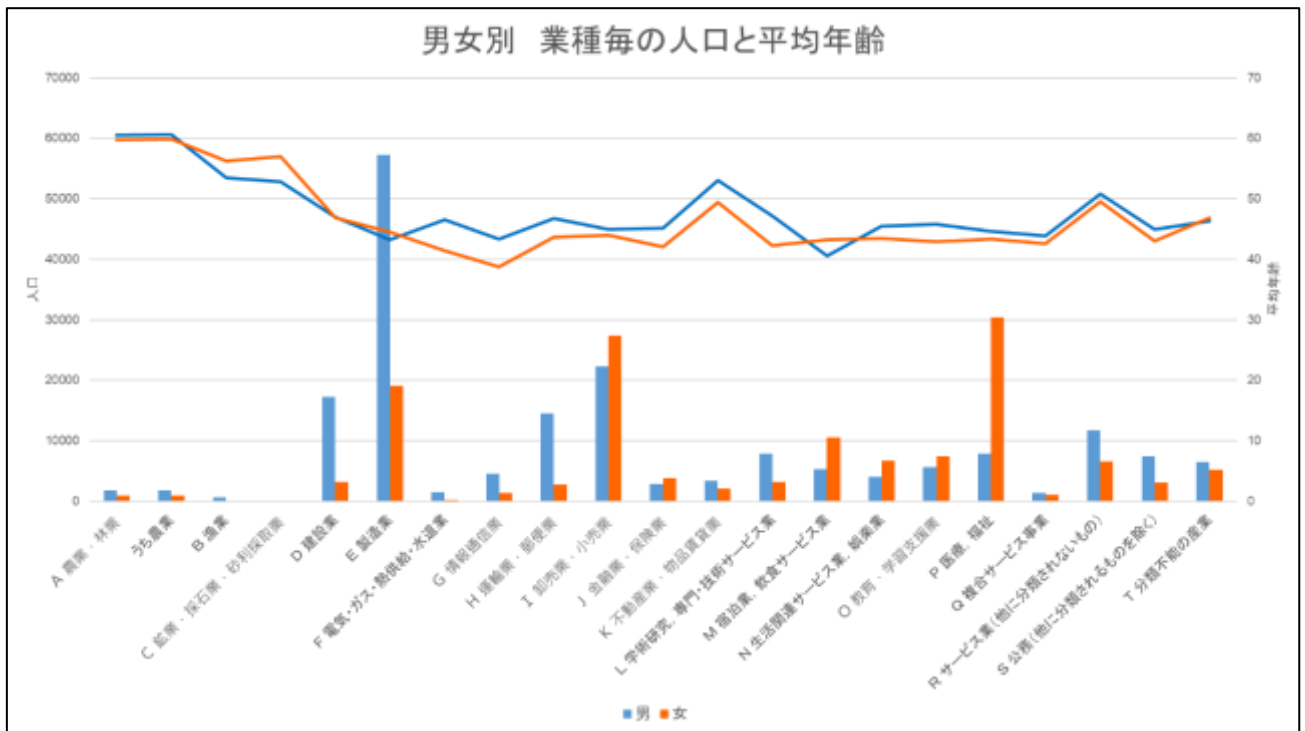
一方、常住地による15歳以上就業者数のうち約半数程度が他市区町村で従業している。

○ 製造品出荷額



県民局別では4年連続で1位であることが確認できる。東播磨地域は神戸市と同程度の製造品出荷額で、平成28年度を除いて出荷額は全体的に増加傾向にある。

○ 男女別業種毎の人口と平均年齢



● 男女別業種

漁業については、殆どの従事者が男性である。

建設業、製造業、情報通信業、運輸業・郵便業、学術研究・技術サービス業については、男性が女性を上回っていて、建設業、製造業では特に差が顕著である。

女性が男性を上回っているのは、飲食サービス業、生活関連サービス業・娯楽業、教育学習支援業、医療・福祉で、中でも医療・福祉では圧倒的に女性の数が男性の数を上回っている。

● 平均年齢

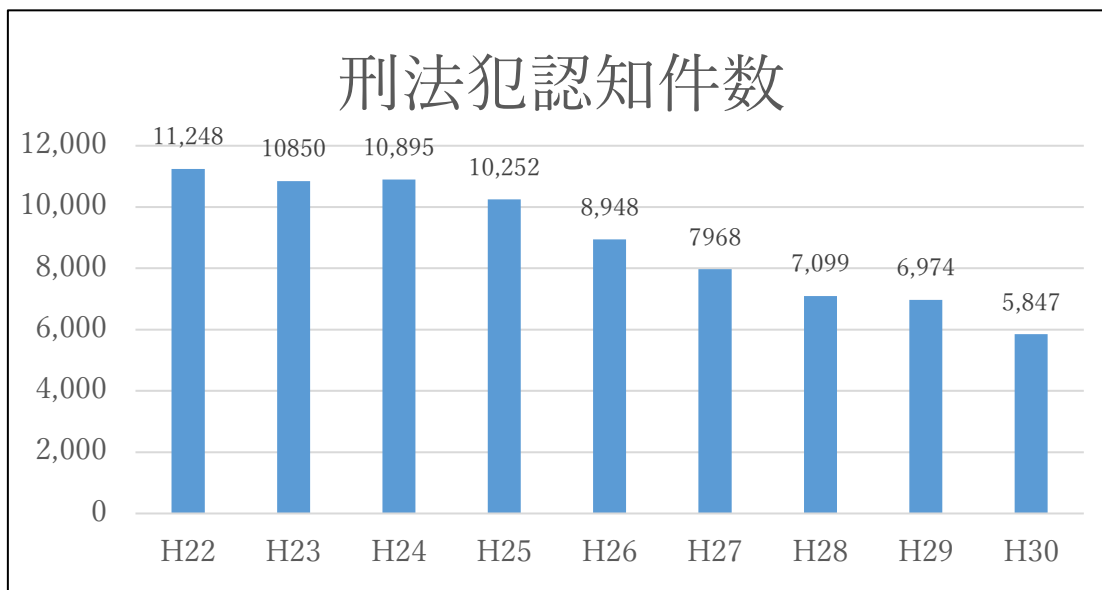
基本的には、男性の年齢が女性の年齢よりやや上回るかほぼ同程度であるが、漁業および鉱業・採石業・砂利採取業、製造業、宿泊業・飲食サービス業では、女性が男性の平均年齢を上回る。

男性で一番平均年齢が低い業種は宿泊業・飲食サービス業で、一番平均年齢が高いのは農業・林業となっている。

女性で一番平均年齢が低いのは情報通信業であり、一番平均年齢が高いのは男性と同じく農業・林業となっている。

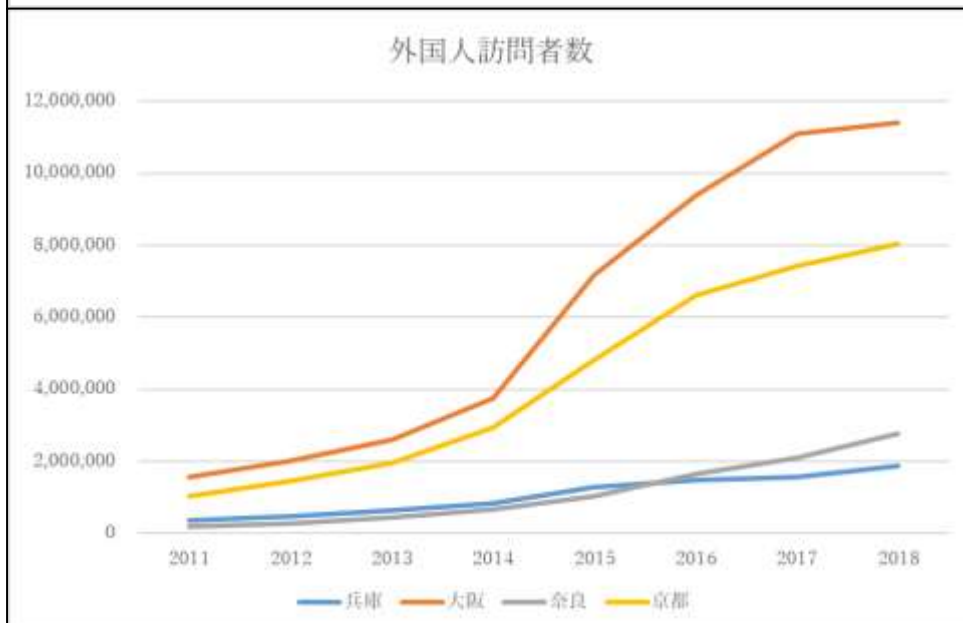
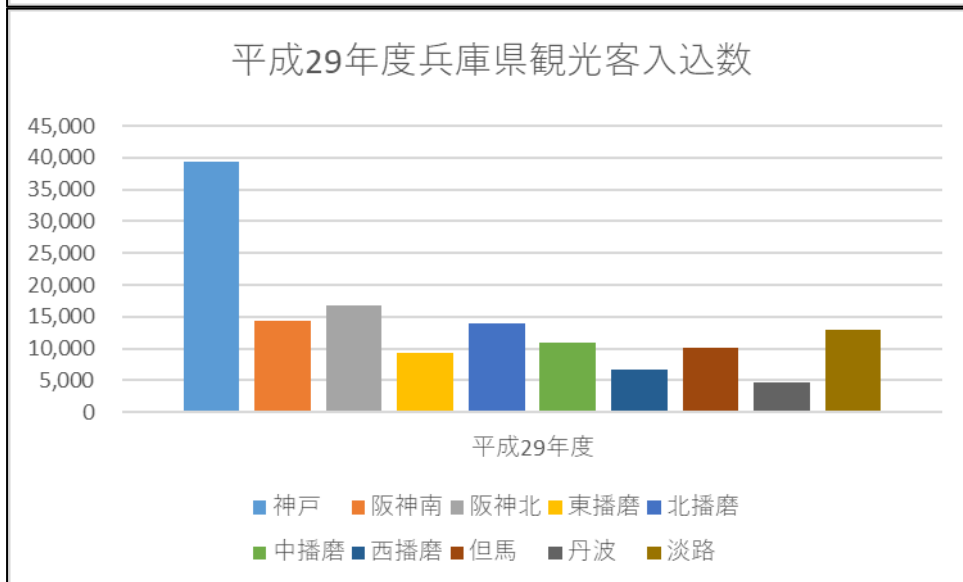
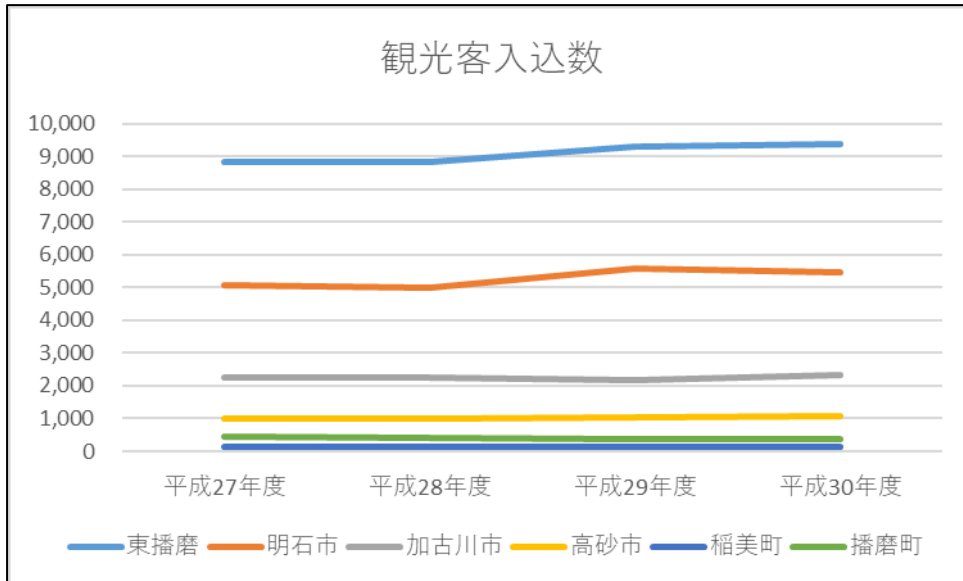
【その他データ】

○ 刑法犯認知件数



東播磨管内での刑法犯認知件数は、平成 22 年をピークとし、緩い減少傾向にあったが、平成 26 年からは 1 万件以下となった。平成 30 年の件数は、平成 22 年の約半分程度にまで減少した。

○ 観光客入込数



全体的に横ばい傾向が続いていて、年間約 900 万人が東播磨の観光に訪れる。神戸市からもアクセスが良く、明石城や魚の棚商店街など観光資源の多い明石市が、東播磨管内では最も観光客が多く年間約 500 万人が観光に訪れる。

他の 2 市 2 町へは約 100 万人～200 万人程度の観光客が訪れている。

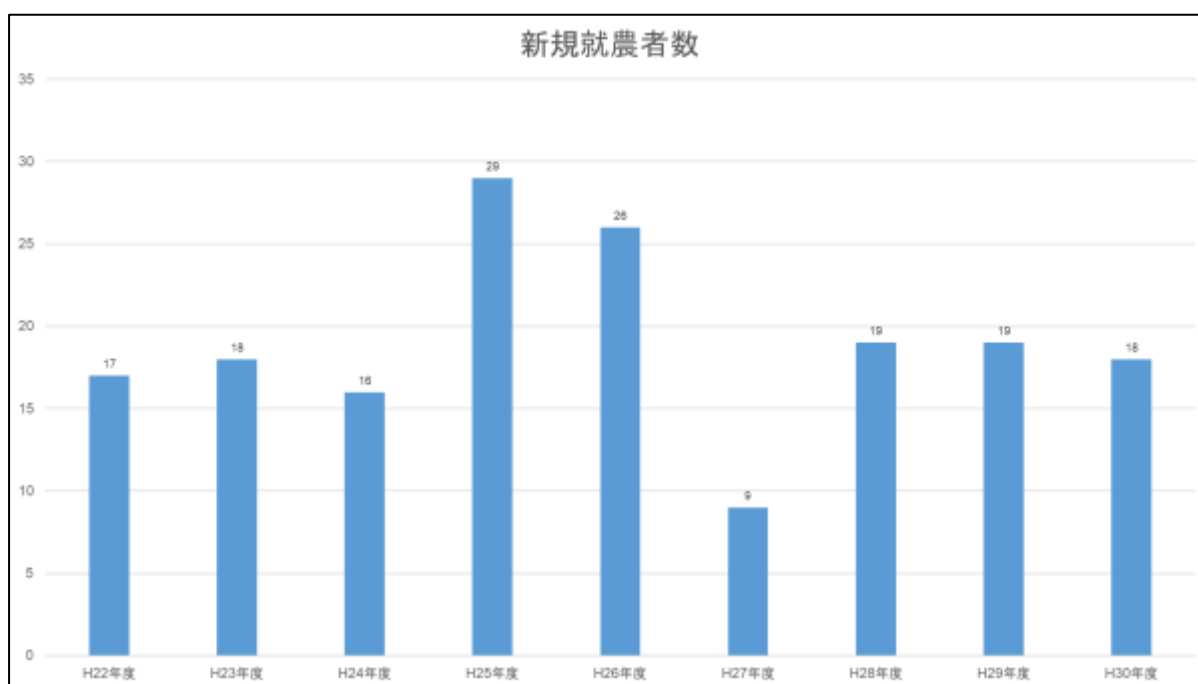
政令市・県民局単位で見た場合神戸市が圧倒的に多く、東播磨は下から 3 番目の入込人数となっている。

平成 28 年度と比較しても数値の増減はあるものの順位の変動は見られない。

東播磨では平成 28 年度より+48.2 万人が増えている。主な増減要因としては明石公園での花見客や、大規模イベント(2017 西日本 B-1 グランプリ)が開催されたことによる増、また生石神社、高御位山などでも観光客が増加したことによる。

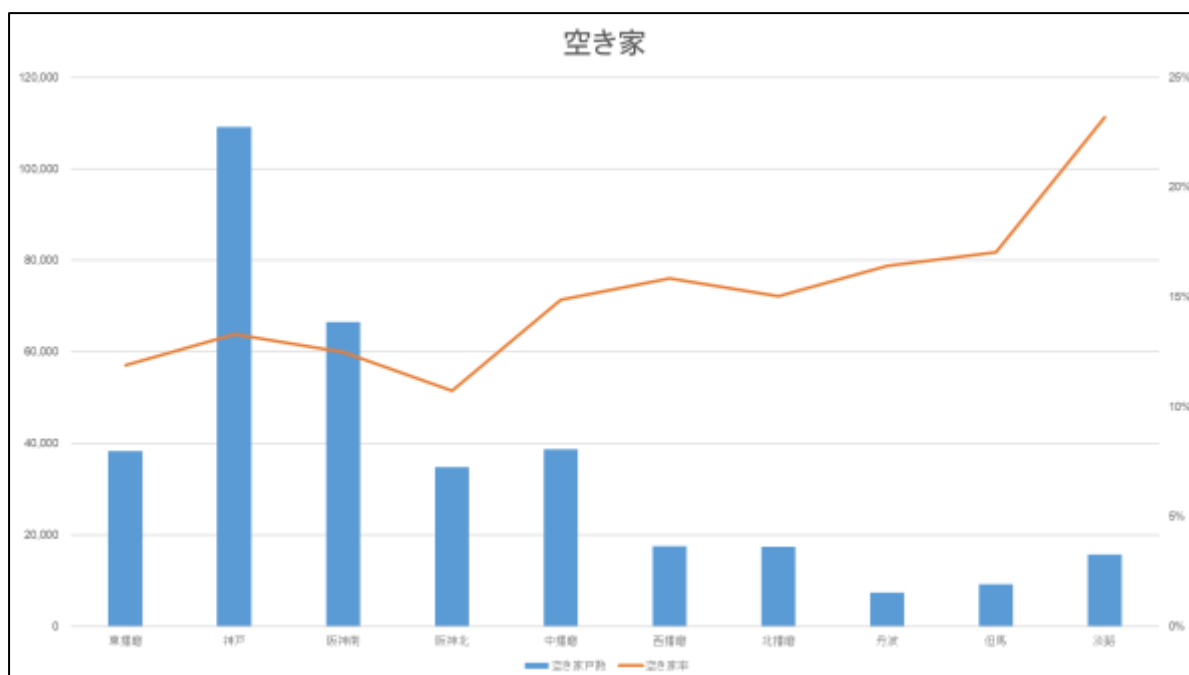
外国人観光客数は伸びているものの、近隣他府県と比べると緩やかで、2016 年には奈良県に抜かれている。

○ 新規就農者数



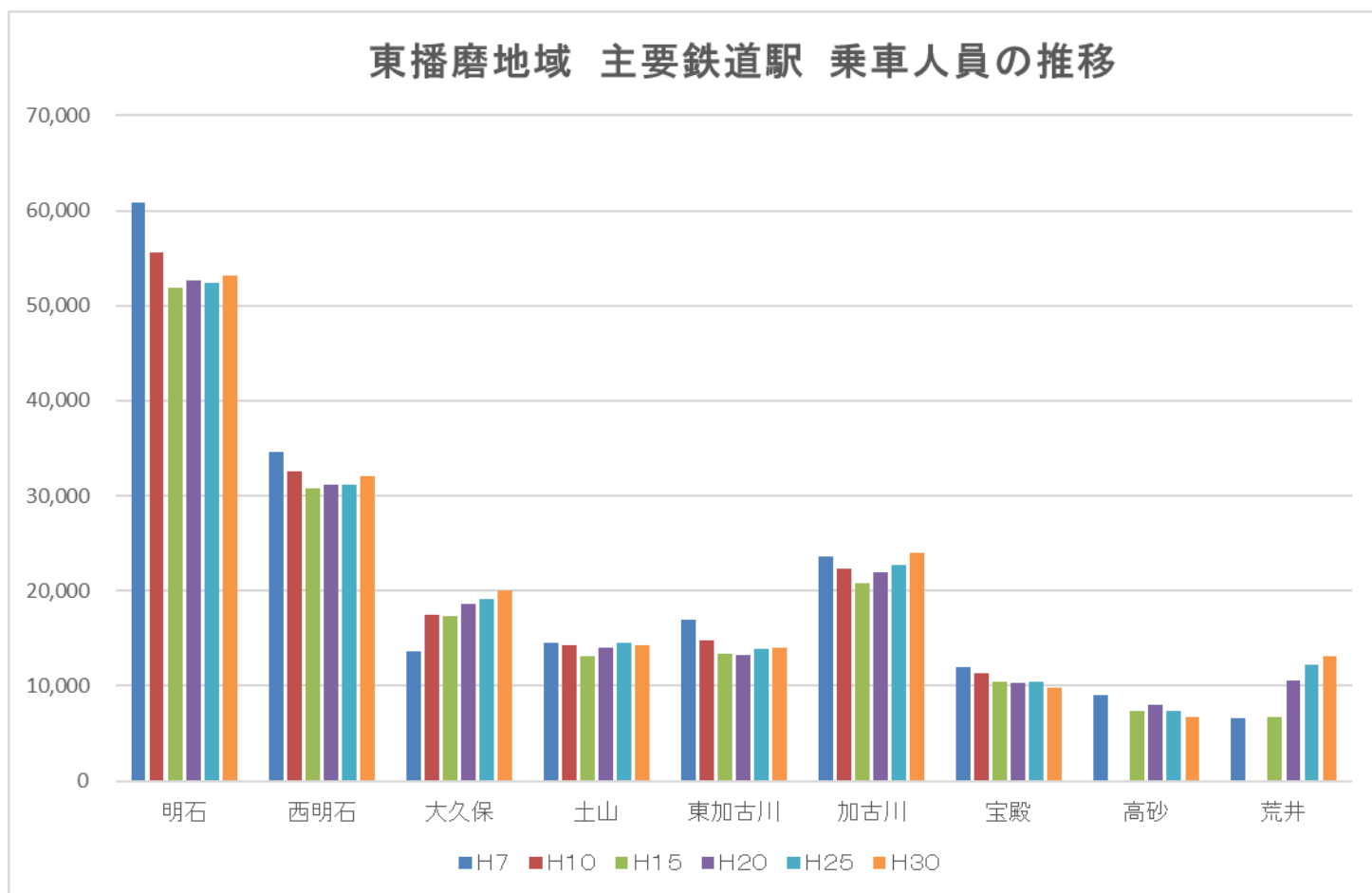
平成 22 年から 24 年にかけて横ばいで推移していたが、平成 25 年度には急激な上昇を見せた。平成 26 年度も 25 年度には及ばないものの高い水準となっていたが、翌 27 年度は急激に落ち込み、その後は平成 22 年から 24 年と同程度に推移を続けている。

○空き家戸数・空き家率



県内において2番目に空き家率は低いものの、全体の戸数が多いため空き家の戸数は県内で4番目に多い。

○鉄道駅乗車人員

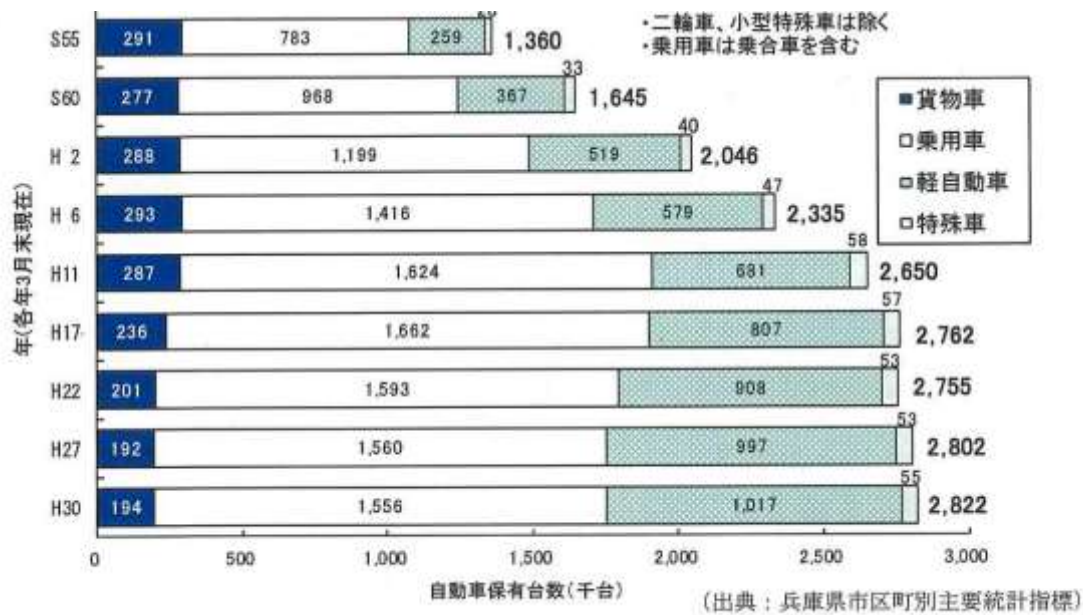


(各年度1日平均・単位:人)

路線	駅名	H7	H10	H15	H20	H25	H30
JR 山陽本線	明石	60,888	55,543	51,915	52,589	52,440	53,184
	西明石	34,630	32,572	30,835	31,164	31,113	32,063
	大久保	13,655	17,497	17,337	18,600	19,083	19,971
	土山	14,469	14,258	13,122	14,034	14,481	14,329
	東加古川	16,988	14,844	13,417	13,240	13,898	13,968
	加古川	23,627	22,380	20,789	21,915	22,669	23,993
	宝殿	11,930	11,352	10,497	10,372	10,374	9,784
山陽電鉄	高砂	8,996		7,383	7,963	7,353	6,752
	荒井	6,573		6,699	10,530	12,268	13,134

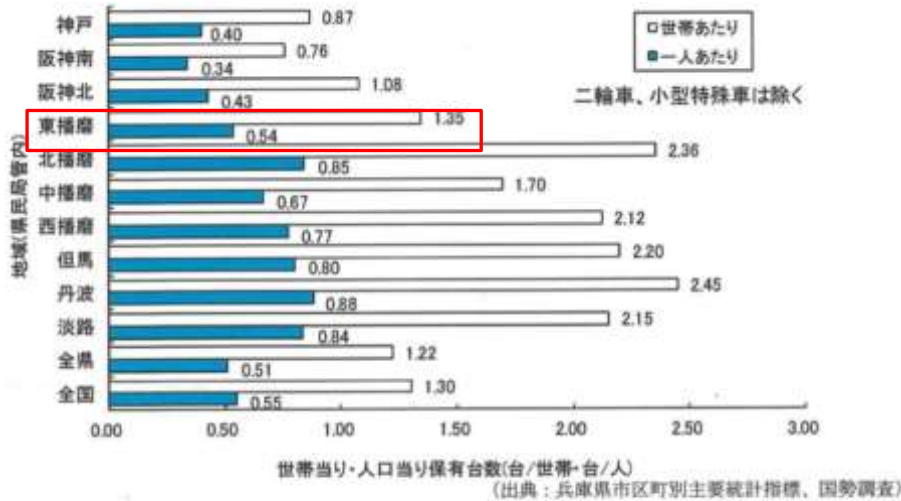
[出典: 兵庫県統計書, 高砂市統計書]

○自動車の保有状況



自動車保有台数の推移

- 平成 30 年 3 月末現在の兵庫県内の自動車保有台数は、約 282 万台となっており、昭和 55 年と比べ、約 2.1 倍になっている。近年は横ばい傾向である。



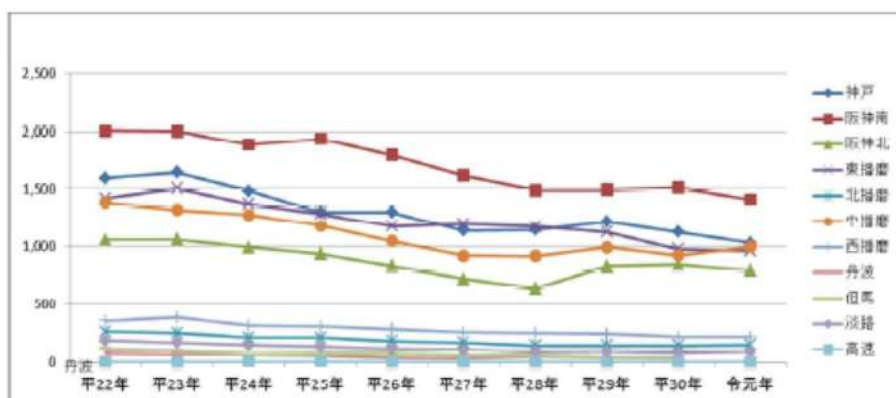
地域別自動車保有台数 (平成30年3月末現在)

1

- 平成 30 年 3 月末現在の兵庫県内の 1 世帯あたり、1 人あたりの自動車保有台数は、いずれも全国平均よりやや低い状況にある。県民局別では、神戸、阪神南の都市部では、1 世帯あたり 1 台未満であるのに対し、但馬、淡路等では、1 世帯あたり 2 台を超えている。
- 東播磨県民局管内では、1 世帯あたり、1 人あたりとも、ほぼ全国平均並となっている。

○自転車関係事故の発生状況

年別 県民局別	平22年	平23年	平24年	平25年	平26年	平27年	平28年	平29年	平30年	令元年	増減数
合 計	8,444	8,485	7,794	7,400	6,821	6,205	5,945	6,207	5,881	5,716	-165
神戸県民センター	1,594	1,642	1,483	1,299	1,300	1,139	1,144	1,216	1,123	1,029	-94
阪神南県民センター	2,010	2,005	1,882	1,935	1,792	1,616	1,491	1,494	1,513	1,407	-106
阪神北県民局	1,055	1,060	992	935	832	720	637	828	842	795	-47
東播磨県民局	1,420	1,506	1,372	1,286	1,175	1,196	1,174	1,126	974	963	-11
北播磨県民局	258	245	207	208	178	163	140	140	138	145	7
中播磨県民センター	1,385	1,318	1,277	1,178	1,045	920	917	992	922	996	74
西播磨県民局	354	382	312	305	280	253	248	240	212	212	0
丹波県民局	73	67	64	56	40	35	50	39	35	27	-8
但馬県民局	113	95	63	69	69	59	58	41	41	53	12
淡路県民局	182	165	141	128	110	104	86	91	81	89	8
高 速 道 路	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0



- ・令和元年中の自転車関係事故のうち、阪神南地域が最も多く、次いで神戸、中播磨、東播磨地域となっている。

[出典：兵庫県 HP]

近年の主な大雨による災害

平成30年7月豪雨 (H30.6.28~7.8)
洪水・浸水

平成28年8月台風第10号 (H28.8.30~31)
洪水

平成26年8月豪雨 (広島市の土砂災害、H26.8.20)
がけ崩れ

平成27年9月関東・東北豪雨 (H27.9.9~11)
浸水

平成29年7月九州北部豪雨 (H29.7.5~6)
土石流

平成23年台風第12号による大雨 (紀伊半島大水害、H23.8.30~9.6)
がけ崩れ

令和元年東日本台風 (台風第19号) (R01.10.12~13)
洪水・浸水

福岡県朝倉市 北川
出典：国土地理院ウェブサイト

大規模な土砂災害で発生した天然ダム (奈良県五條市大湊町赤谷)

1時間降水量30mm以上の年間発生回数（兵庫県）

- 兵庫県の1時間降水量30mm以上の年間発生回数は増加しています(統計期間1979～2018年で10年あたり0.22回の増加、信頼度水準99%で統計的に有意)。
- 最近10年間(2009～2018年)の平均年間発生回数(約1.41回)は、統計期間の最初の10年間(1979～1988年)の平均年間発生回数(約0.74回)と比べて約1.9倍に増加しています。



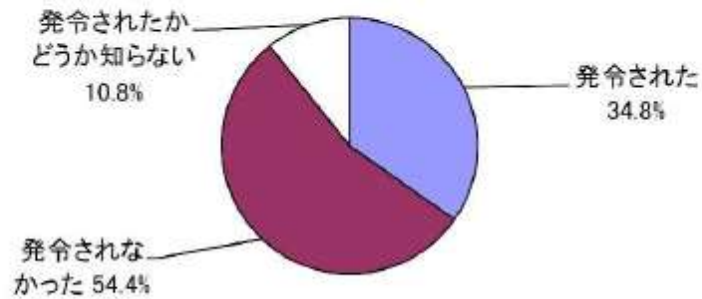
13

[出典：神戸地方気象台]

- 近年、大雨による大規模な災害が全国的に頻発している。
- 兵庫県では、1時間降水量30mm以上の平均発生回数が、最近10年間(約1.41回)は、統計期間最初の10年間(約0.74回)と比べて約1.9倍に増加している。

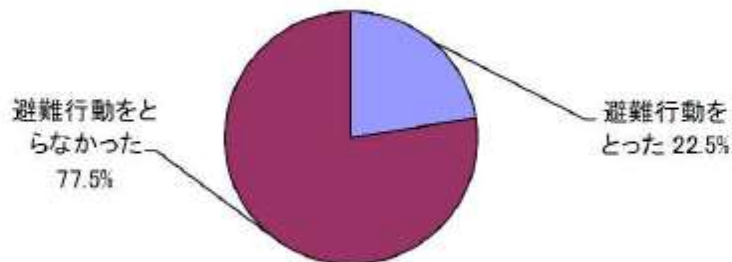
○避難行動

ア あなたが住んでいる地域に、この1年以内に市町から災害時の避難情報（「避難準備・高齢者等避難開始」・「避難勧告」・「避難指示（緊急）」）が発令されましたか。



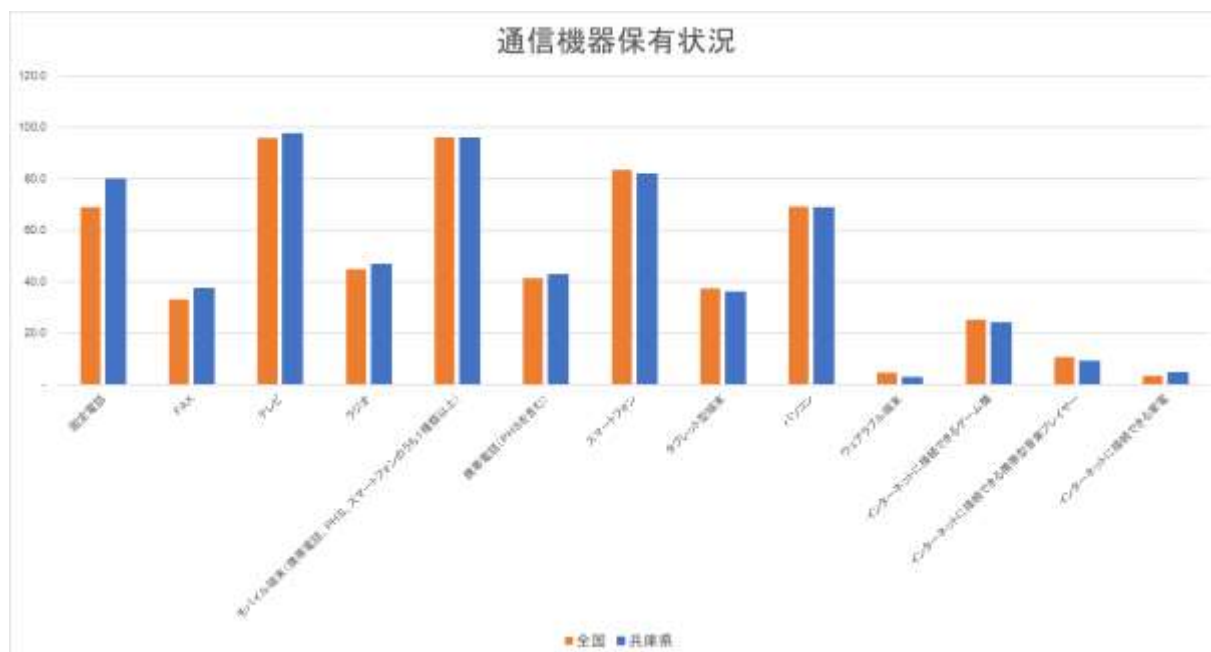
イ アにおいて「発令された」と回答された方にお伺いします。災害時の避難情報が発令された際に避難行動をとりましたか。

- ※避難行動をとった人の、避難行動の内容（63件）のうち、主なもの
- ・安全な部屋への避難（屋内安全確保）（38件）
 - ・避難所や親戚の家などへの避難（8件）
- ※避難行動をとらなかった理由（447件）のうち、主なもの
- ・避難するより自宅にいる方が安全だと思った（145件）
 - ・様子を見て大丈夫だと思った、避難するほどではないと思った（115件）



避難情報を得たとしても、多くの人が避難行動を取らない。

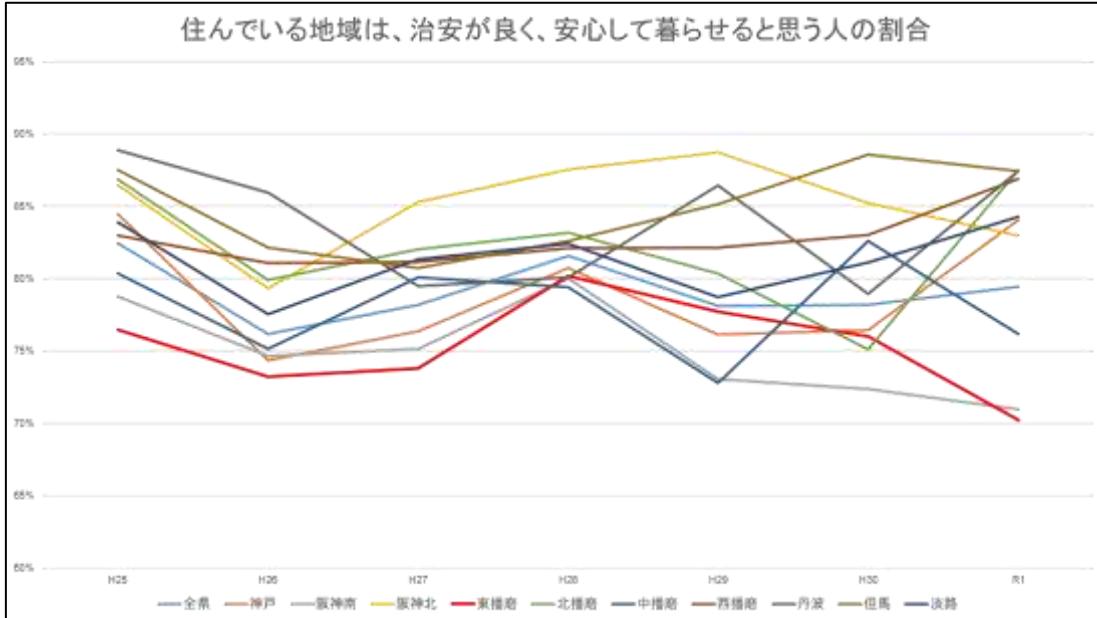
○通信機器保有状況



全国と比較すると、固定電話とテレビ・ラジオの所有率が高く、タブレット端末やスマートフォンの所持率は低い。

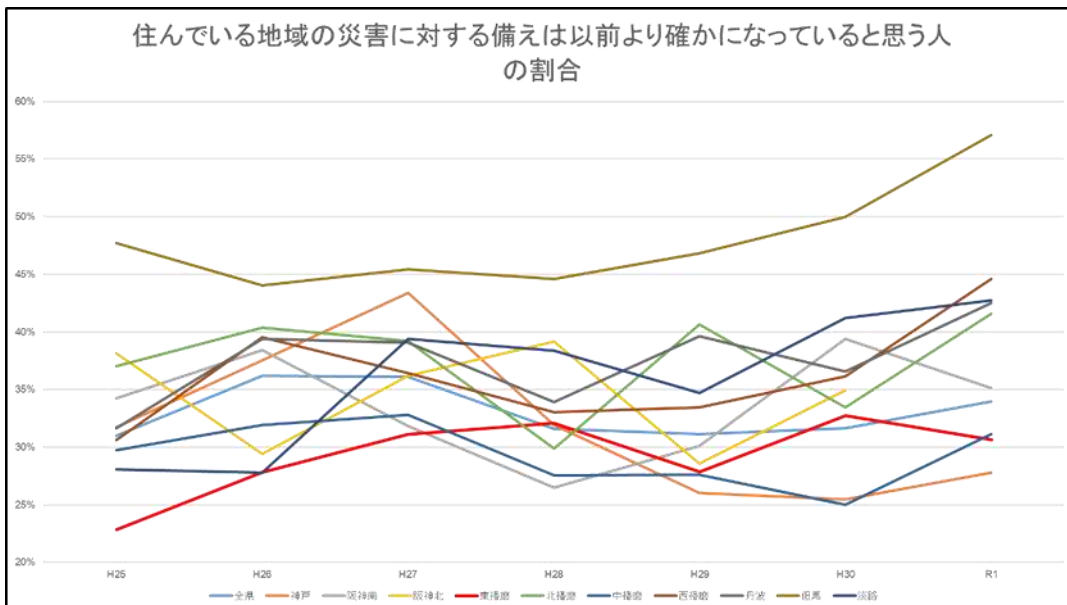
【県民意識調査】

- 住んでいる地域は、治安が良く、安心して暮らせると思う人の割合



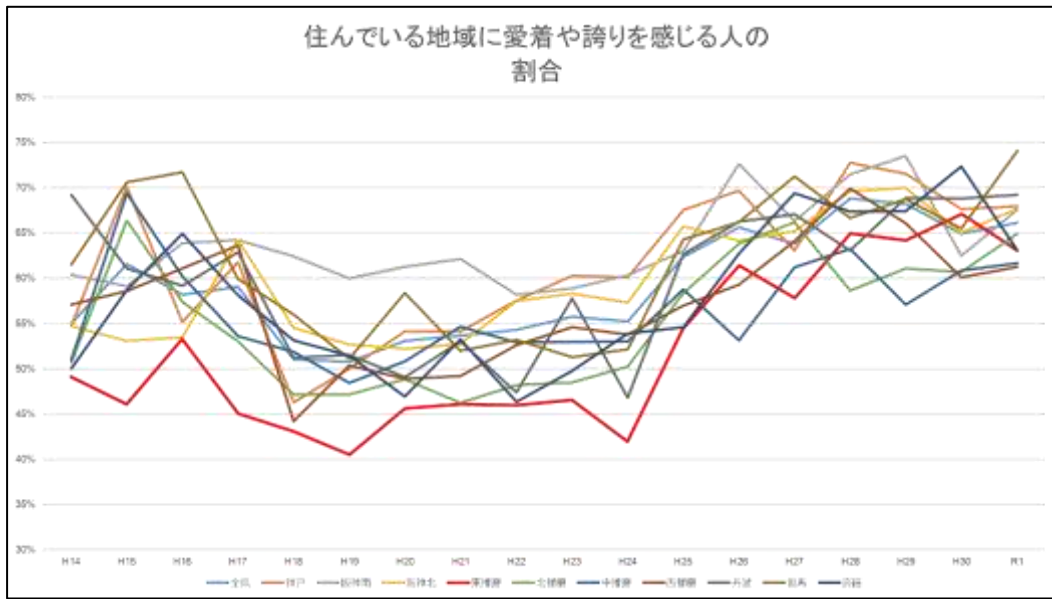
平成 28 年にピークを迎え、80%となったが、そこからは減少傾向にある。県内では最下位である。

- 住んでいる地域の災害に対する備えは、以前より確かなものになっていると思う人の割合



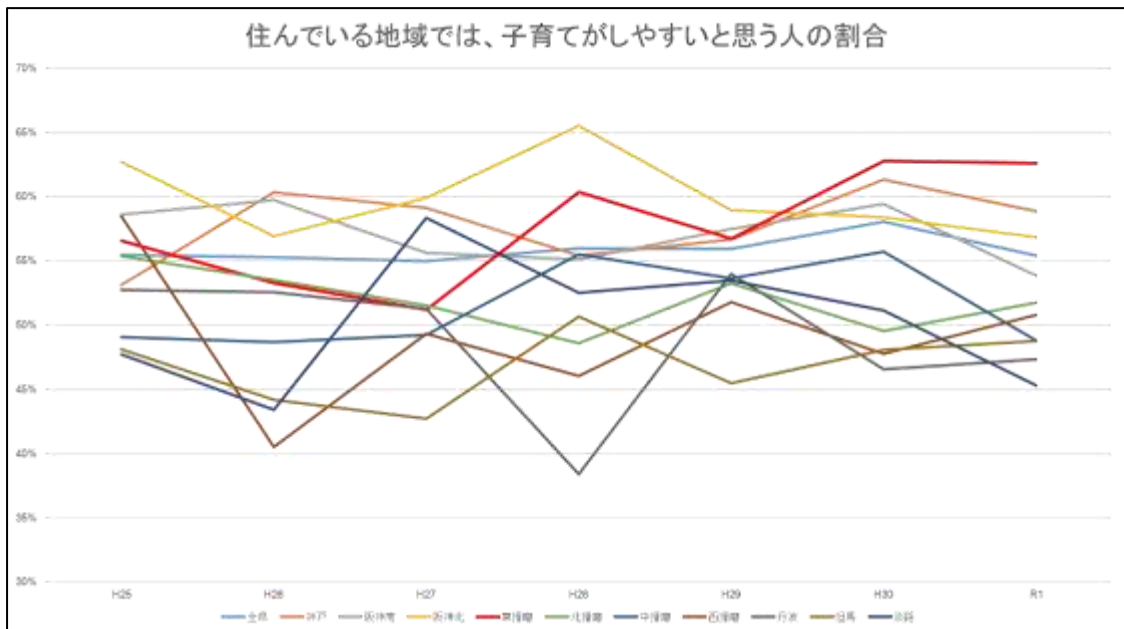
平成 29 年に大きく減少しているが、長い目で見れば上昇傾向にある

○ 住んでいる地域に愛着や誇りを感じる人の割合



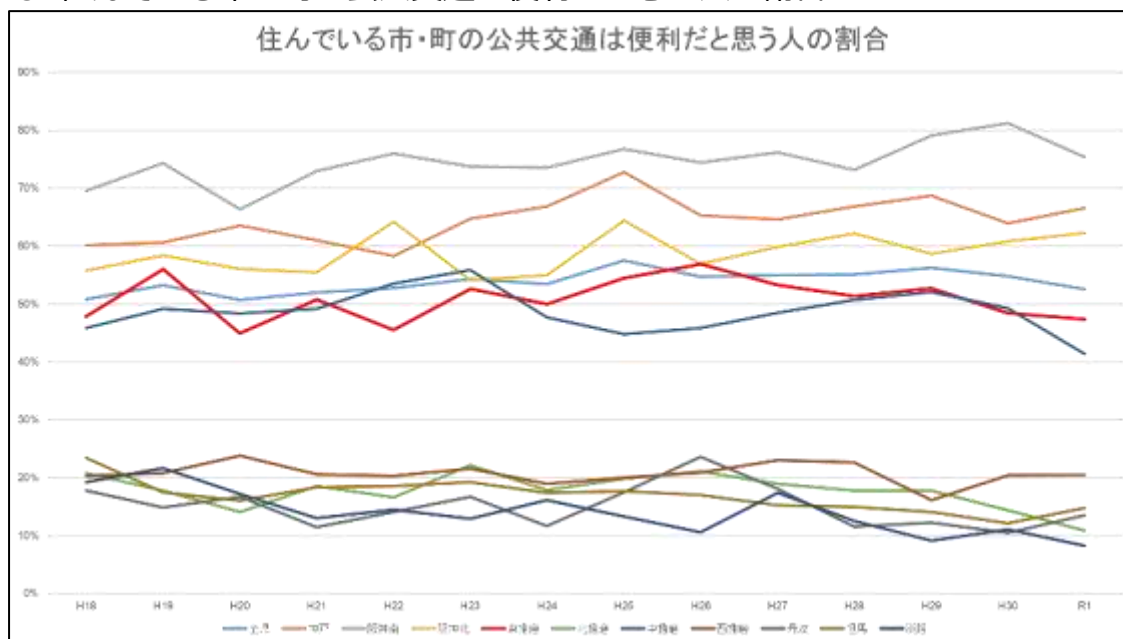
平成 14 年からしばらくは大きな変動はなく最下位だったが、平成 24 年以降上昇傾向にある。

○ 住んでいる地域では、子育てがしやすいと思う人の割合



大きな変化は見られないが、若干の増加傾向にある。10 地域で 1 位の数値。

○ 住んでいる市・町の公共交通は便利だと思う人の割合



年によってばらつきが見られるが大きな変化はない。